

コース等	学年	単位数	教科	科目	検定教科書	副教材	
IG	1	1	コア	コア探究	×	×	
到達目標	<p>【下記①～③について学んだことを教科学習や学校生活で活用することができる】</p> <p>①高校での探究学習の基礎を身につける</p> <p>②問う力の向上を目指す。学ぶ意味について探求できる。</p> <p>③学んだことを活用して植物公園魅力化を考えることができる。</p>						
評価の観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	定期考査実施			
	<ul style="list-style-type: none"> 探究学習の基礎を身につける 問う力を高める 	<ul style="list-style-type: none"> 学習する意味について考える。 探究学習の基礎を学校生活で活用する方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことを活用し、より良い学校生活を送ろうとする。 学校生活の自分なりの意味を見出し、積極的に学習などに取り組む 		中間	期末	課題点(%)
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> キャリアリンク教材の取り組み 授業中のワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活への活用 まとめのワークシート 植物公園魅力化案 	<ul style="list-style-type: none"> 口頭試問など 	1学期	×	×	×
				2学期	×	×	×
				3学期	×	×	×
				年間課題点平均(%)		×	
期間	時間数	学習項目		学習到達目標		評価方法	
1学期	中間まで	6	<ul style="list-style-type: none"> 鹿島建設・キャリアリンク教材 東京駅プロジェクト 女川プロジェクト 羽田空港プロジェクト 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決の基本を学ぶ 探究的な学びの基礎を学ぶ 学んだことを学校生活に活用しようとする。 		ワークシート	
	期末	5	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活（特に興風祭）への活用 				
2学期	中間まで	7	<ul style="list-style-type: none"> 問いを立てる 学びと問い（各教科） 学びと問い（まとめ） 植物公園プロジェクト（講演など） 	<ul style="list-style-type: none"> 学ぶ意味を考える 問を立てる力を高める 植物公園の現状を知る 		ワークシート	
	期末	4					
3学期	期末まで	6	<ul style="list-style-type: none"> 植物公園魅力化プロジェクト 自分マニフェスト 	<ul style="list-style-type: none"> 植物公園魅力化案を考える 1年間の学びをまとめる 		プレゼンテーション	
備考	1年間の学びや成長を自分マニフェストまとめ、口頭試問に合格することが進級条件である。						

中高	コース等	学年	単位数	教科	科目	教科書	副教材		
高	普通・一貫	1	1	総合	コア探究 I B (CSL)	なし	ファイル		
到達目標		<p>①人とかかわり方、自己コントロールなどの基礎力を伸ばし、自分や周りの人の良さ・強み・好みに気づく。(主にSSで到達を目指す)</p> <p>②学習する意味や社会で働く魅力に気がつき、自分なりに将来を見通してもっと学び、様々な経験をつもうという思いを持つ。まずは高い学習意欲を持ち、高2に向けて納得のできる進路選択ができる。(主にCDで到達を目指す)</p>							
評価の観点		①キャリアデザイン (CD)			②ソーシャルスキル (SS)				
		<ul style="list-style-type: none"> 自分に対する見方が広がる。 自分の将来を考え、それを様々な方法で人に表現できる。 社会で働く魅力に気づき、目の前の学びを頑張ろうという思いを持ち、思いを行動にうつせる。 			<ul style="list-style-type: none"> まわりの人や自分の良さを知り、人と上手にかかわることができる。 ストレスをコントロールする方法を知り、実践できる。 				
評価の方法		ポートフォリオ評価。授業で課すレポートなど学びの成果をまとめたものを見て総合的に評価する。				定期考査実施			
						中間	期末	課題点(%)	
						1学期	×	×	
						2学期	×	×	
						3学期	×	×	
						年間課題点平均(%)		0	
進級課題		①自分マニフェスト作成 ②口頭試問合格をクリア の2つが単位認定の条件。単位はコアとあわせて「コア探究 I」(2単位)として認定。							
期間	時間数	学習項目			学習到達目標		評価方法		
1学期	中間まで	6	<ul style="list-style-type: none"> オリテ、1年間の学び 			<ul style="list-style-type: none"> 授業の意義がわかる。 自分の好みや価値観のとらえ方が広がる。 			
	期末まで	5	<ul style="list-style-type: none"> 高校でのキャリア形成 (CD) ストレス対応、人とかかわり方 (SS) 			<ul style="list-style-type: none"> 人とかかわり方がわかり、自分をコントロールすることができる。 ストレス対応ができる。 			
2学期	中間まで	7	<ul style="list-style-type: none"> グループワーク、認知 (SS) なぜ学ぶ、なぜ働く (CD) 			<ul style="list-style-type: none"> 物事のとらえ方を知る。 人とかかわり方について、学んだことが実践できる。 なぜ勉強するのかについて自分なりの答えをいくつも持つ 社会で働くことの魅力を知り、もっと学ぼうという思いを持つ。 			
	期末まで	6	<ul style="list-style-type: none"> R-CAP ふりかえり (CD) 目の前の進路を考える 			<ul style="list-style-type: none"> 自分の将来について考え、納得のできる進路選択ができる。 			
3学期	期末まで	7	<ul style="list-style-type: none"> 学びのまとめ (3分野それぞれ、全体) コンセプトマップ 			<ul style="list-style-type: none"> 学んだことをまとめ、将来の見通しを持って、日々の生活が送れる。 			
備考									

2021年度高1コア年間予定

<コア1> 木曜日1時間目

回数	月	日	分類	内容	備考
1	4	15		オリテ	
2		22		鹿島教材1・導入	
		29			祝日
3	5	6		鹿島教材2・丸の内1	
4		13		鹿島教材3・丸の内2	
5		20		鹿島教材4・女川1	
6		27		鹿島教材5・女川2	
7	6	3		鹿島教材6・羽田空港1	
8		10		鹿島教材7・羽田空港2	
9		17		鹿島教材8・まとめ	
10		24		興風祭企画など (コアの学び活用)	
	7	1			テスト
11		8		100年計画	
12		15		学びみらいPASS講演	
13	9	2		科目選択について(酒井)	
14		9		学びと問い1(オリテ)	
15		16		学びと問い2	
		23			祝日
16		30		学びと問い3	
17	10	7		学びと問い4	
18		14			テスト
18		21		学びと問い5	
19		28		学びと問い6	
20	11	4		学びと問い7	
21		11		学びと問い8(まとめ)	
22		18		興風祭企画に コアの学びを活かす	
		25			テスト
23	12	2		植物公園PJ(講演)	12月4日
24		9		植物公園PJ2	アイデア
25		16			
26		23			
27	1	13		植物公園PJ3	情報収集
28		20		植物公園PJ4	Xチャート
29		27		植物公園PJ5	企画固め
30	2	3		植物公園PJ6	プレゼン
		10			H入試
31		17		植物公園PJ7	プレゼン
32		24		コア探究1年間のまとめ	

★口頭試問準備をLHRで実施必要

<CSL>クラスごとに時間が異なる

回数	分類	内容
1		オリテ
2	SS1	話し方・聴き方
3	CD1	立命館学部調べ説明
4	CD2	立命館学部調べ作成
5	CD3	立命館学部発表
6	CD4	立命館学部発表
7	CD5	立命館学部発表
8	CD6	立命館学部発表
9	SS2	言葉かけ
10	SS3	謝り方・頼み方・断り方
11	SS4	認知
12	CD7	キャリアアンカー、 ブランドハプンスタンス
13	SS5	ストレス対応
14	SS6	ストローク
15	SS7	SNS(ss)
16	CD8	R-CAP分析1
17	CD9	R-CAP分析2
18	CD10	なぜ学ぶ1
19	CD11	なぜ学ぶ2
20	CD12	しごと一く
21	CD13	なぜ働く(名言、レジ打ち)
22	CD14	なぜ働く(四人の価値観)
23	CD15	コンセプトマップ2(CD)
24		クラスごと
25		クラスごと
26	SL1	植物園見学
27	SL2	植物園企画
28	SL3	植物園企画
29	まとめ	コンセプトマップ1
30	まとめ	コンセプトマップ2

2021 コア探究 I

ガイダンス
～コアとは？～

「地の時代」から「風の時代」へ

地の時代	風の時代
お金、物質	情報、体験、人脈
所有する	シェア「共有」する
固定	移動、流動
安定	革新
善悪	多様
性別、国籍、階級	ボーダレス
組織、会社	個人、フリーランス
縦社会（上司、部下）、順番	横のつながり、友人、仲間、対等
自力で達成	協力し、助け合う
常識、既成概念	フレキシブル、斬新なアイデア

問題です！

〇〇に指示されているかぎり、
僕らは何も学んでいない

〇〇に入る言葉は何だと思いますか？

「たった一つを変えるだけ」から

では、これからの時代、何をどの
ように学ぶことが必要だと思
いますか？
2分取ります。考えてみてくだ
さい。

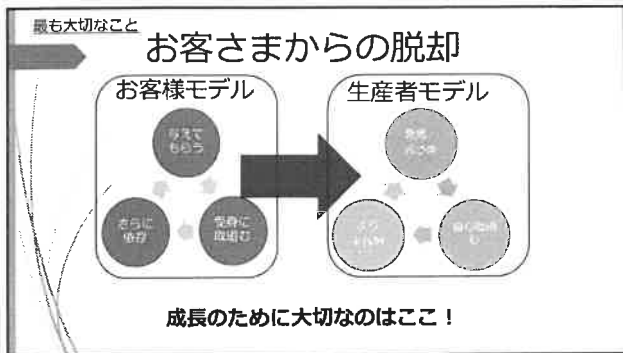
正解は「教師・大人」！

教師・大人に指示されて
いるかぎり、僕らは何も
学んでいない

「たった一つを変えるだけ」から

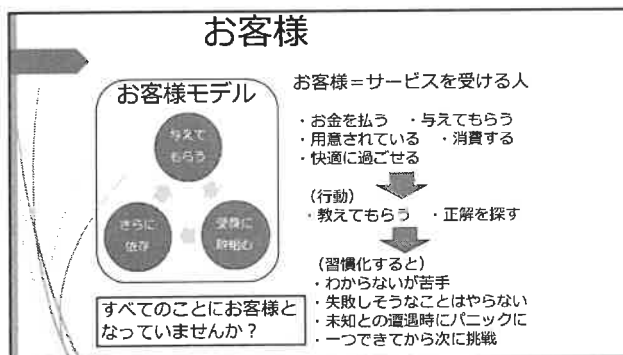
今日の問い

- ① コアとは？
コアで学ぶことは何なのか？
- ② 自分はコアの学びをどのように
活かしたいのか？



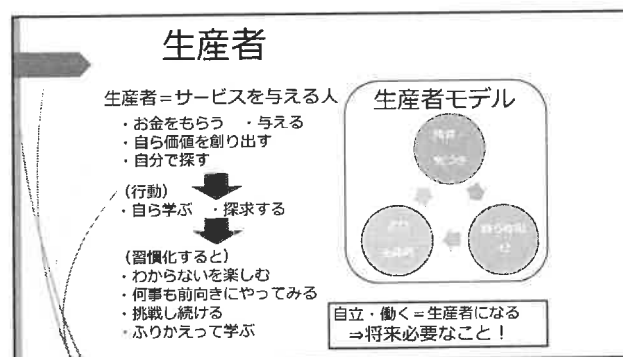
お客さまでいる間は何も学んでいない

教科やクラブ、行事など
様々な学びの機会に
対して、お客さまに
なっていませんか？



自分はお客さま？生産者？

<p><お客さまの例> ~してもらおう~</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教えてもらうことが当然と思う。 ・上達するための方法を自分で考えようとしない。 ・与えられたことはできる。 (自分からはしない) ・何のために取り組んでいるかわかっていない。 	<p><生産者の例> ~何かをする~</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で学ぶのが当然と考える。 ・上達するための方法を自分で考える。助言なども自分からもらいにいいける。 ・自分から取り組む。 ・取り組むことの意味を分かっている。 ・誰かのためになる価値を産み出す。
---	---



自分の中学校生活をふりかえる

- ▶お客さまだったときは？
- ▶生産者だったときは？

少しワークをしましょう

<問い> 近くの人々の長所は？自分の長所は？

<ワーク> 2人組。

大切なのはここ！

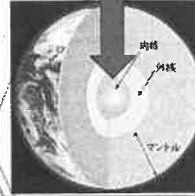
話す(1分) → 質問し答えをもらう(2分) →
その人の長所を予測し伝える(1分) → 交代

<ルール> いい場作りへのリーダーシップ発揮！

- * 人と比べない！ * ちゃんと聞く！
- * しっかり話す！

コアとは？

コア(CORE) = 惑星・衛星などの核。光ファイバーの芯。
中心部・核という意味。



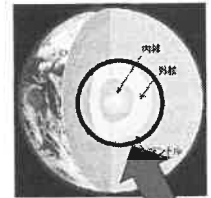
コアの授業は、様々な学びの
中心となるもの。

コアの授業は核となるものを
育てる授業。

生産者になるには
どんな力が必要
ですか？

コアとは？

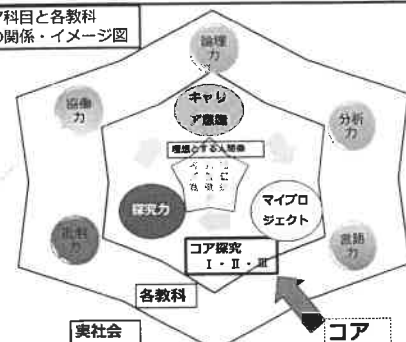
- ①生産者になるための
エッセンス(スキル、マインド)
を育てる授業。
- ②総合的な探究の時間として、
3年間実施。
- ③高1ではコアとCSLの2時間がある。



コアが教科やクラブ・行事のより良い学びにつながり、
逆に教科などでの学びがコアの学びを支える。

では、これからの時代、何をど
のように学ぶことが必要だと思
いますか？
この問いの答えの中心に来るの
がコア探求
=生産者になるための力を養う。

コア科目と各教科
との関係・イメージ図



コア I の学習内容／目標

お客さま→生産者

- ①探究的な学びの基礎（鹿島建設教材から）
⇒大人の本気の挑戦を教材に、探究的な学びの基礎を習得
- ②問いを立てる
⇒問う力の向上から深い思考ができるようになる
⇒人生に関わる大きな問いを立てることができる
- ③植物公園魅力化を考える
⇒学んだことを活用して植物公園魅力化を考える

先輩からコア探究を学ぶ際のアドバイス

コアの時間は自分自身と向き合う時間だから、大切にしたいと思います。

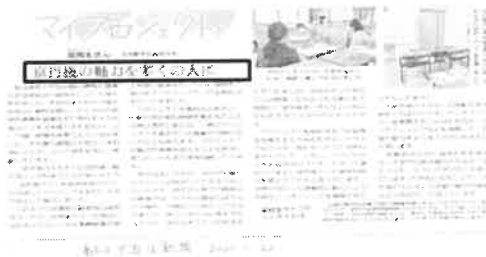
今持っている自分の考えが3年間で変わります！大変なこともあるけど、自分を成長させてくれるものなので全力で取り組んでください！

真面目に頑張ってください。

大学での学びや、将来の自分のキャリアにつながる科目です。

コアで学ぶものはその当時授業を受けていても分からないが、後になってわかる。だから真剣に受けるべき。

先輩の活動例



最後に
(はじめの問いに答える)

- ①コアとは？
コアで学ぶことは何なのか？
 - ②自分はコアの学びをどのように活かしたいのか？
- +感想なども書いてください

先輩の感想

自分で課題を立ててそれに取り組むということができるようになったと感じました。

1,2年の時、コアの授業をもっと真剣に受けていればよかった。早く、コアの授業を受ける大切さに気づきたかった。

もっと自分から行動したら良かった。

自分の人間性について理解することができる授業であったと思った。またその人間性をより良い方向へもっていくことができたと思う。

これからの人生において、絶対役に立つことを教えてもらった。普通学校では教えてくれないことをしっかり吸収できたと思う。

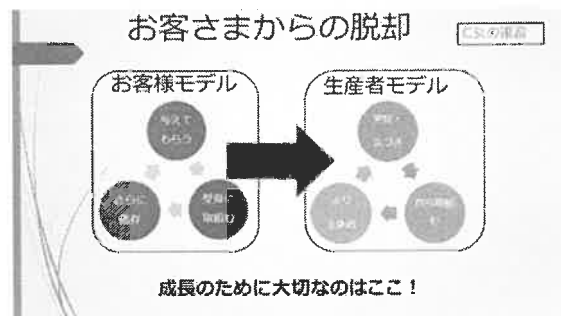
1年間よろしくお祈いします。
一緒にいいチームを創って
いきましょう！

高1 コア探究 ワークシート オリテ

1年 () 組 () 番 ()

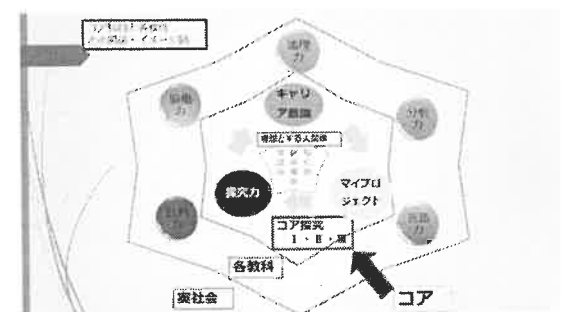
1、はじめに

- ・〇〇に入るのは？（個人→ペア）
- ・どう思いますか？（学んでいるのはどんな時？）



2、自分をふりかえる

- ・お客さまだったとき／なぜそう思う？
- ・生産者だったとき／なぜそう思う？
- ・ペアワーク／相手への質問
- ・ペアワークで指摘された自分の長所
- ・生産者になるために必要な力は？



3、コアについて

- ・生産者になるためのエッセンス（スキル、マインド）を育てる
- ・総合的な探究の時間として、3年間実施
- ・高1ではコアと CSL の 2 時間がある

★今日の問いに答えましょう

(1) コアとは？コアで学ぶことは何なのか？

(2) 自分はコアの学びをどのように活かしたいのか？

★今日の授業の感想、コアを学ぶにあたっての決意を書いてください

2021年度コア「なぜ学ぶ+質問作りについて」（8回目はまとめ）

★コンセプト

- ・生徒が問いを作れるようになる+学ぶ意味に気づく！
- ・教員が自分の教科の意味について考える！

★授業の内容

- ・担当教員から今日の授業の質問作りの目標+教科学習の意味①（12分）
- ・生徒が先生の話に対して質問を作る（10分）＜質問作り・前半＞
- ・上記の質問にも答えながら担当教員から教科学習の意味②（10分）
- ・生徒が先生の話に対して質問を作り、それに答えながら話をまとめる（13分）＜質問作り・後半＞
- ・まとめ記入（5分）

（注意）はじめは質問の作り方からレクチャーし、徐々に深い問いができるようになることを目指す。
生徒への指示も徐々にレベルをあげていく。

★担当体制

回		4組	5組	6組	7組	8組	9組	10組	11組	12組
1	9/9	西原（大ホール）								
2	9/16	徳地	川口	岩崎	松田	前川	岡本	生田	川端	三井
3	9/30	三井	徳地	川口	岩崎	松田	前川	岡本	生田	川端
4	10/7	川端	三井	徳地	川口	岩崎	松田	前川	岡本	生田
5	10/21	生田	川端	三井	徳地	川口	岩崎	松田	前川	岡本
6	10/28	岡本	生田	川端	三井	徳地	川口	岩崎	松田	前川
7	11/4	前川	岡本	生田	川端	三井	徳地	川口	岩崎	松田
8	11/11	まとめ（各クラスで担任が進行）								

★学ぶ意味を話すことについて

（1）スタイル・内容は担当者任せ。ただし以下の2つの条件は満たすように。

①レジュメをA4・1枚用意する。それを見たら話しの概略がつかめるようにし、質問作りにつなげる。

生徒がレジュメに書き込む量については担当者任せ。

②教科に関連する研究テーマや未解決問題など、より探究できることについて伝える。生徒が自分の探究テーマを見つけるヒントになるように。

（例：数学の100万ドル問題、ヒット曲の背景にある数学、主権者教育をよりよいものにするために、

SDGs実現へ向けて、怪我からより早く復帰するために）

（2）パワーポイント、実演するものなど使用する機器については担当者任せ。

（3）6回とも同じ話をするを前提とするが、生徒の反応を見て修正するのは自由。

★担任会にて打ち合わせる内容

- ・各先生が生徒に話す内容の骨子をプレゼン（10分）順番に！可能な限り！
- ・その時間の後半の問いを確認する。

★質問作りについて

<この単元全体の問い>

自分が学ぶ意味は何か？ 自分がより探究したいことは何か？

(毎回の問い)「〇〇(教科)を学ぶ意味は何か?」「自分にとって〇〇(教科)を学ぶ意味は何か?」

<質問作りワークの時間> 毎回「質問の焦点」を明確にする。

1回目:とりあえず質問(問い)を作ることができるようになる。

2回目:まわりの力を参考にして質問(問い)を作ることができるようになる。

3回目:まわりの力で質問(問い)を多く作ることができるようになる。

4回目:優先順位が1番の質問を決める。

5回目:まわりの力を借りて質問を書き換えることができる。キャリアとアカデミックな質問に分けたうえで書き換える。

6回目:同上

<質問する内容> 問の答えにつながるのがベター

・発表内容についての質問

例) 〇〇とはどういうことですか? なぜ〇〇なのですか?

・先生個人への質問

例) いつからその教科が好きでしたか? どんなときに教科の良さを感じますか?

・教科への質問

例) 公園を数学的に見ればどんな見え方をしますか? これから数学と近くなる教科は? 大学でどのように使いますか? (役立ちますか? つながりますか?)

・その他

例) その教科について、今取り組まれている研究テーマは?

コア探究 国語を学ぶ意味

9月9日（木）1限
国語科：西原丈人

私が国語教師になった理由

- ・小学生の頃から読書が好きだった
- ・小2のときに書いた作文を褒められた
- ・国語か英語の教師になりたいくて大学へ

今回のコア探究のテーマ

①なぜ学ぶのか？

②問いを立てる力をつける

- ▶ いろいろな先生が教科を学ぶ意味を語ります（情報収集）
- ▶ 質問作りを通じて、より深めます（整理・分析）
- ▶ 最後にまとめます（まとめ）
- ▶ まとめることで、次の課題が見えます（課題設定）

みなさんに質問

- ・国語は好き？嫌い？
- ・国語は必要？不必要？
- ・国語で養われるのはどんな力？

問いを立てる授業の大まかな流れ

- ①担当の先生から教科の特徴や学ぶ意味について（15分）
- ②先生の話に対して質問を作る（10分）＜質問作り・前半＞
- ③担当の先生から教科を学ぶ意味について（10分）
- ④先生の話に対して質問を作る（10分）＜質問作り・後半＞
- ⑤まとめ、今日の気づき記入（5分）

*漫然と話を聞くのではなく、「質問をする」という意識をもってメモをとりながら聴いてください。

もしも国語が苦手だったら・・・

- ・ **漢字力** : 「立命館」が書けない!?
コナンのアルバイト
- ・ **語彙力** : 「神々しい」が読めない!?!
新婚旅行の添乗員
- ・ **文章力** : 間違いだらけの調書を書く警察官
「停止すべしだったのですが、直進してやろうと思って～」

⇒社会に出てから恥をかく

国語でみんなにつけてほしい力は？

読解力 って何？

何を読み解く力？

- 書かれてある内容（読む）
- 相手が話す内容（聞く）
- 相手の気持ち（共感する）
- 場の空気（察する）

論理的読解力

情緒的読解力

参考文献：『なぜ、読解力が必要なのか！』
池上彰著（講談社e文庫）

「基礎的読解力」調査

【問2】 次の文を読みなさい。

Alexは男性にも女性にも使われる名前で、女性の名Alexandraの愛称であるが、男性の名Alexanderの愛称でもある。

Alexandraの愛称は（ ）である。

①Alex ②Alexander ③男性 ④女性

65% 3% 3% 28%

教科書が読めない子どもたち

3年前（2018年）に出版され、話題になった本
『AI vs.教科書が読めない子どもたち』新井紀子著（東洋経済新報社）

AI vs.教科書が読めない子どもたち

全国2万人の中高生に基礎的読解力調査を実施

3人に1人が、簡単な文章が読めないという結果

30万部 2019年 読解力が、友の人間は、大負け！仕事を奪われる！

中高生の基礎的読解力が「危機的な状況」

読解力が低下すると？

- 書いてある内容を読み取ることができない
- 相手の言っている内容を聞き取ることができない
⇒意思疎通ができない・人に騙される
- 他人の気持ちに共感することができない
- 場の空気を察することができない
⇒対人関係でトラブル・孤立する

社会生活に支障

「基礎的読解力」調査

【問1】 次の文を読みなさい。

仏教は東南アジア、東アジアに、キリスト教はヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニアに、イスラム教は北アメリカ、西アジア、中央アジア、東南アジアにおもに広がっている。

オセアニアに広がっているのは（ ）である。

①ヒンドゥー教 ②キリスト教 ③イスラム教 ④仏教

2% 73% 5% 20%

質問作り・前半

- ここまで話で、質問を考えよう。（最低3つ）〈2分〉
- 周りの人たちと共有し、質問を書く。（最低3つ）〈2分〉
- 質疑応答（挙手⇒いなければランダムに指名）〈5～6分〉

読解力低下の原因は？

- ・スマホの普及（ゲーム・SNS）
依存傾向⇒認知能力の低下
【実験】以下の条件で認知能力を測る作業をして、その成績を比較する。
①スマホを目の前に置く 最も成績が悪かった
②スマホをポケットにしまう
③スマホを別の部屋に置く
- ・読書傾向の二極化と質の低下（読まない）
長時間読書をする子と、まったく読書をしない子の二極化
読む本の質が低下してきている（ライトノベルや原作が漫画の本）
- ・長文を書く機会の減少（書かない）
手紙⇒メール⇒LINE *深く思考せずに返信

きっかけの例《評論文》

山崎正和の「水の東西」を学習

- ・典型構造「序論・本論・結論」
⇒他の評論の構造を考えながら読む
⇒レポート等を書く際、構造を意識して書く
- ・水以外で東洋と西洋の比較
⇒他の比較文化論に興味をもち、読んでみる
⇒自分でも比較文化論を書いてみる

読解力をつけるために国語科ができること

- ・スマホの使用を制限することは不可能
- ・読解力は一朝一夕でつくものではない
- ・国語の授業⇒読解力がつく
- ・読まない⇒読む
- ・書かない⇒書く

きっかけ
づくり

きっかけの例《古文・漢文》

- ・重要古語や文法事項、置き字や再読文字など
確かに覚えることは多いが...
⇒覚えてしまえば古典を「読める」「味わえる」
- ・今から千年前・二千年前に生きていた人たちの
知恵・教訓・感性などを知る
⇒まずは興味をもつ⇒そこから学べることは必ずある
- *「大学や社会で古典は必要ない」という人もいるが...
先人の知恵を人生の糧（生きるヒント）にしている人はたくさんいる

きっかけの例《小説》

芥川龍之介の「羅生門」を学習

- ・芥川の代表作「鼻」「蜘蛛の糸」「藪の中」等
⇒他の作品も読んでみる
- ・典型構造「導入・展開・山場・終結」
⇒他の小説を読むとき、構造を考えながら読む
- ・比喩の学習（直喩・隠喩・擬人法・換喩）
⇒他の小説に使われている比喩を意識して読む

読書の効果

- ・2021年8月12日の読売新聞の記事（国立青少年教育振興機構の調査）
小学生から高校生までの間に読書量が多かった人は大人になった時に
認知機能・批判的思考力・主体的行動力・自己理解力が高い傾向にある
- ・「読む」と「書く」ことは表裏一体の関係
- ・国語の授業の中で「読む」「書く」量は限られている
- ・国語の授業をきっかけにたくさん読書をしてほしい！
⇒読書をすればするほど、読解力は確実に向上する

まとめ

- ・国語が苦手な人は、社会に出てから苦勞する
- ・国語でみんなにつけてほしい力 = 読解力
- ・読解力が低下すると社会生活に支障を来す
- ・国語の授業はあくまでもきっかけづくり
- ・高校時代にたくさんの読書をしてほしい
- ・国語を学ぶ意味 = 読解力の向上

質問作り・後半

- ・ここまでの話で、質問を考えよう。(最低3つ) (2分)
- ・周りの人たちと共有し、質問を書く。(最低3つ) (2分)
- ・質疑応答(挙手⇒いなければランダムに指名) (5~6分)

(今日の問い)

- ①「自分はなぜ学ぶのか」?
- ②どうすれば質問を作り、問いを立てる力をつけることができるのか?

(問いを立てる授業 毎回の授業の大まかな流れ)

- ①担当の先生から今日の授業の質問作りの目標、教科の特徴について(1)(12分程度) 情報収集
- ②先生の話に対して質問を作る(10分)【質問作り・前半】
- ③担当の先生から前半の質問への回答+教科を学ぶ意味について(2)(10分) 整理・分析
- ④先生の話に対して質問を作る。その回答も交えて話をまとめる(13分)【質問作り・後半】 まとめ
- ⑤まとめ、今日の気づき記入(5分) 課題設定

(注意) 上記はモデルです。授業によっては、たとえば①③と②④をまとめてするときもあります。
ただし先生の話と質問を作る時間は同じくらいの時間を使う授業がほとんどです。

(今日のミッション)

とりあえず質問(問い)を作ることができるようになる。

<質問する内容(例)> 探究テーマ(学ぶ意味)につながる質問がベター

- ①発表内容についての質問
例) ○○とはどういうことですか? なぜ○○なのですか?
- ②先生個人への質問
例) いつからその教科が好きでしたか? どんなときにその教科の良さを感じますか?
- ③教科への質問
例) 公園をその教科の目で見ればどんな見え方をしますか? これからその教科が明らかにしたいことは何だと思えますか?
- ④その他
例) 大学でどう使いますか?(役立ちますか?つながりますか?) 今取り組まれている研究テーマは?
[大切なこと!] 質問することを意識して話を聞きましょう。その際、先生の言うことを100%肯定的に聞くのではなく、批判的にも聞き、上記①~④に当てはまらない Critical な質問ができる力を徐々につけていきましょう。それが探究テーマにつながります。

<質問作り・前半>

(自分で作った質問) 最低3つ!	(まわりの人が作った質問) 最低3つ!
-------------------------	----------------------------

<質問作り・後半>

(自分で作った質問) 最低3つ!	(まわりの人が作った質問) 最低3つ!
-------------------------	----------------------------

★まとめのプリント(1枚ポートフォリオ)に今日の授業の気づきを記入すること。

令和3年度研究開発実施報告書

★本校は平成31年度(令和元年度)よりWWL指定を受けることになり、平成30年度より研究開発学校として取り組む予定だった内容のすべてをWWLの一環として行うこととなった。本報告書はWWLの中のカリキュラム開発部分を取り出したものである。

1 研究開発課題

カリキュラム構造創出を促す日本版コア科目「総合的な探究の時間」の研究開発
～学びに向かう力や人間性等の涵養、および社会・世界と関わりよりよい人生を送ろうとする
「アクティブラーナー」を育成するために～

2 研究開発の概要

日本版コア科目「総合的な探究の時間」の研究開発を行う。生徒をアクティブラーナーとして成長させていく上では、教科領域と教科外領域の関係性を高め教育課程全般の教育力を向上させていくことが大きな意味を持つ。これを可能にするカリキュラムと教育内容や評価方法を確立し学校として取り組んでいく。既存教科にばらばらにある探究的教育活動の共通項目やベースをコア科目に集中させることによりカリキュラムを精選し、トータルでアクティブラーナー育成に資する教育を提供するためのカリキュラムマネジメントの推進力とする。コア科目はすべての教育活動に通底する力を育てる、文字通り中核と位置づける。本研究では教員にとってはコア科目と教科の指導、生徒にとってはコア科目と教科の学習がどのような過程を経てつながっていくのかも明らかにする。これにより学校のカリキュラムマネジメント進捗を見える化し、そのモデルを明らかにする。

3 研究開発の経緯

＜令和3年度 主な取り組み＞

月	内容
6	・第1回運営指導委員会
10	・仙台第三高等学校との授業交流（通年で実施したが、この時に本校から教員派遣）
11	・第2回運営指導委員会 ・企業の最先端に触れる1日@東京
12	・マイプロジェクトアワード in 宇治開催
1	・WWL公開研究会 学外（保護者含む）にも公開し、生徒全員が発表 ・第3回運営指導委員会
3	・起業家交流会@東京

*今年度は中小企業庁の起業家教育実践校としても取り組みを進めたが、それに伴う講演会などは表に記載していない。

*表には記載していないが、校内では定期的にWWL全体の運営会議と3学年主任でのコア探究の運営打ち合わせを実施した。

*学校外での取り組み発信や視察等受け入れは上記表に記載せず。

*個別にお願いした指導助言も記載せず。

＜令和3年度 コア探究運営指導委員メンバー＞

氏名	所属	職名	備考（専門分野等）
越智規子	立命館宇治	副校長	
八木誠	立命館宇治	高校教頭	
酒井淳平	立命館宇治	教諭、研究主任	キャリア教育部長
西田透	立命館宇治	教諭	高3学年主任
小久保久美子	立命館宇治	教諭	高2学年主任
河井亨	立命館大学	准教授	大学生の学びと成長
溝口侑	横浜桐蔭大学	講師	大学生の学びと成長
村井尚子	京都女子大学	教授	リフレクション、教師教育
山下真司	リクルート	Ed-tech総研 所長 教育総合研究所	キャリア教育
大森順子	京都女子大学	主席研究科	元百合学院進路指導部長
小村俊平	ベネッセ		他に岡山大学学長補佐など

* WWL として上記以外に運営指導委員メンバーが学内に6名、学外に6名

4 研究開発の内容

本研究開発では「総合的な学習の時間」を「総合的な探究の時間Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(学内呼称は「コア探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」)」とし、学習指導要領の先行実施を行う。以下1) 研究開発での主な知見 2) 教育課程の目標 3) 教育課程の内容 4) 授業形態や運用上の工夫 5) 教科との連携など 6) 研究計画 7) 評価計画について記載する。なお教育課程は毎年修正しているが以下の記載は2021年度のものである。

1) 主な知見 (2021年度)

- ・総合的な探究の時間と教科の連動によって、生徒の学びのストーリーが豊かになる。選択科目が多様な高校におけるカリキュラムマネジメントの要諦は豊かな学びのストーリー作り。
- ・コア探究によって、生徒の資質・能力は確実に向上する。探究によって、思考力・判断力・表現力が向上し、キャリア教育の要素が含まれていることで、学びに向かう力も向上する。
- ・論文、プロジェクト、起業プラン作り、実験やものづくりなど集大成としての作品を表現する方法は多様でよいが、大事なことは「マイテーマ」であることと、学校外とつながること。また書籍や論文、インタビューなどを含む、しっかりとした情報収集が土台として必要不可欠。
- ・マイテーマを見つけるためにも、課題設定の練習が必要である。その際、論文、プロジェクト作り、進路探究など様々なアプローチで課題設定を行うことが重要。
- ・探究の基礎としては、問いを立てること、本物教材を使つての探究スキル習得が重要であるが、同時に学ぶ意味・働く意味の探究も必要不可欠である。
- ・生徒はマイテーマを持つことで、社会とつながることができ、学校外で大きく成長する。
- ・教員は継続して担当することで、3年間の流れを理解すると同時に、それを全教員が理解することの重要性に気づく。同時に論文執筆やプロジェクト等の受賞は決して目的ではないことにも気づいていく。そして学びのストーリーを意識するようになる。
- ・マイラーニングストーリーによって、高校でのキャリアパスポートができる。

(後述する仮説の検証にところにも今年度の知見あり)

★この間の知見の蓄積

(2018年度)

- ・教員がチームとして創造することが重要。新しいことへの不安は当然あるので、不安に寄り添うチームが重要。
- ・探究は問いを立てることが土台となるが、生徒にとって重要な問いに「学ぶ意味」がある。
- ・IB教育でのコア(TOK・CAS・EE)はそれぞれに専門家がいるが、日本型のコアは教員がチームとなり指導するのが、日本らしいのではないか。それが学習する組織にもつながる。

(2019年度)

- ・学びをしっかりとふりかえることで、学びに向かう意欲が向上する。
- ・探究を実施するにあたっては生徒の個人差への対応が鍵となる。
- ・特別活動でのキャリア教育と総合的な探究の時間が相乗効果を発揮することを意識した取り組みが重要。しかし特別活動と総合を厳密に区別して運用すると、生徒が混乱するときもある。総指導時間を守った上で柔軟に運用することが重要。
- ・「どうすれば生徒の取り組みがよりよくなるか」など、教員が探究を自分事とする問いを持つことが大切。
- ・2年間担当すると、教員は探究と教科のつながりを意識するようになる。

(2020年度)

- *総合的な探究の時間でこそ「思考・判断・表現」の力が育つ。それを支えるのは「学びに向かう力」である。学力の3要素で考えると、教科固有の「知識・技能」を育てる各教科、教科を越えた汎用的な「思考・判断・表現」を育てる総合的な探究の時間、それらすべてを支え「学びに向かう力を育てる特別活動(キャリア教育を含む)。この組み合わせで生徒が育つ。したがって、キャリア教育の要素を含んだ本校のコア探究は教育課程の「コア」である、
→日本の学習指導要領においては「キャリア教育の視点」を十分に含んだ総合的な探究の時間と特別活動がIB教育におけるコア科目の役割を果たす
- *コア探究が機能するために大切なものは、教員集団のチーム力であり、教員が学習する集団になれるかどうかポイント。そのための鍵はマインドセット。
- *コア探究でのマイラーニングストーリーはキャリアパスポートになる。リフレクションは重要
- *大人が本気で取り組んだ、本物の教材での基礎スキル育成が重要
- *プロジェクトの大切さ。チョコプロ。人のためにが難しい。サイクルをまわす。
- *コア探究を通じて、生徒の力や進路意識は向上した
- *教員はコア探究にともに取り組みすることで、徐々に成長し、コアの理解を深めていく。

2) コア探究における教育課程

①目標(各学校において定める目標)

各教科学習や各種自主活動に主体的・能動的に取り組む土台となる力を育成する。課題を設定する力や自らテーマを定めた課題研究を仕上げるアカデミックな力と行動力、省察から将来の目標を設定する力や自己決定し自ら取り組むことができる力を持ち、自ら発信できるようになる。

②各科目の目標

コア探究 I (1年次、2単位)の目標:「徹底的につなぐ力」の育成。

- (1) 問いを立てることから学ぶ意味を探究し、自らにとっての学ぶ意味を文章や行動で表現できる。自分と学びをつなぐ。また学びや経験を自分事化して、自分のこれからとつなぐ。
- (2) 大人が本気で探究過程から探究スキルの基礎を学び、それを問題解決に活用する。

コア探究Ⅱ（2年次、1単位）の目標：「自分ごととなる課題を設定する力」の育成

- （1）長い時間かけて明らかにしたい自分の探究課題（マイテーマ）を設定することができる。
- （2）様々な視点での課題設定をふまえて、自らが探究したい課題を設定することができる。

コア探究Ⅲ（3年次、2単位）の目標：「自ら発信する力」の育成

- （1）課題研究を仕上げることができる。
- （2）自らのキャリアと結びついた課題研究の内容を、プレゼンやプロジェクトの参加などの形で社会に向けて発信することができる。

3) 教育課程の内容

コア探究Ⅰ

- （1）コア ア 問いを立てる イ 探究的な学びの基礎 ウ 社会課題解決への活用
- （2）CSL ア キャリアデザイン イ ソーシャルスキル（サービスラーニングは実施不可）
アクティブラーナーのベースを鍛えることがテーマ。社会貢献活動も行いながら、自らのあり方や生き方を考え、社会や他者への貢献、何のために学ぶのかという視点を動機とする学びのモチベーションを涵養する。大人の本気の探究の過程などを教材(*)として、高校生活の土台となる力を鍛える。(*) (株)キャリアリンク「未来の社会を考える探究型プログラム」100年を創造するチカラを使用。

コア探究Ⅱ

- （1）チョコプロ 「プロジェクト×テーマ」
- （2）進路探究 「キャリア×テーマ」
- （3）自分の興味を深める「論文×テーマ」

社会的存在としての自己認識・自己形成がテーマ。自らを取り巻く国内外の諸課題との当事者意識を伴う出会いを通し、課題研究のテーマを発見する。発見したテーマを探究するのに必要なスキルを高める。

コア探究Ⅲ

- （1）課題研究（論文・プロジェクト・起業プラン作成）
- （2）課題研究のプロジェクト化と発信、リフレクション

社会への発信・社会からのフィードバック（課題研究）・リフレクションがテーマ。自ら設定した課題に対し仮説を立てリサーチする。3年生ではその発信とそのことを通じた課題研究のブラッシュアップを到達目標とし、社会に発信する。フィードバックを受け、大学以降のキャリア目標の形成につなげる。マイラーニングストーリーを作成する。

今年度はカリキュラムの修正と完成を目標として取り組みを進めた。特に特徴的な取り組みは「課題設定を中心とした高校2年生の取り組み」と、起業家教育実践校としても取り組みを進めた「表現の仕方を選ぶ形での高校3年生の取り組み」である。

4) 授業形態や運用上の工夫

コア科目「総合的な探究の時間」は学年をベースにさまざまな教科の教員がチームとなって実践する。IBプログラムのコア科目においては、それぞれ専門の教員が配置されているが、本研究開発ではあえて異なる方法を採用することになる。これは日本の学校教育において学年というチームが持つ力が大きいという仮説に基づいている。

(授業形態の工夫)

- ・クラス単位で実施し、毎時間グループワークを入れるワークショップ形式の授業を実施した。
- ・授業実施にあたっては毎時間各クラス共通して使用するパワーポイントを準備し、授業内容の統一ができるように工夫した。
- ・オンラインを活用すれば、一人の教員が各教室に一斉に連絡できるメリットをいかして取り組みを進めました。

(運用上の工夫)

- ・コア探究Ⅰについては昨年度同様、2単位をコアとキャリア（CSL）に分割して運用した。コア1単位は担任＋学年主任の10人の担当教員が9クラスを、キャリア1単位は3人の担当教員が9クラスを担当する形で実施した。
- ・コア探究の指導にあたっては、教員のファシリテーション力も要求されるため、教員が学びあえる時間を担任会議の時間に設定した。またコア探究Ⅰ・Ⅱにおいてはクラス数より担当者数が1人多いことで相互の授業見学や巡回・指導補助教員を配置することができた。これは教員の授業力向上という点で大きな役割を果たした。また教員が自分のクラス以外にする時間を意識的にもうける、教材準備にあたってはブラッシュアップ担当を決めるなど、教員の交流がうまれることを意識して取り組んだ。

5) コア探究と各教科などとの連携について

- ・高校においては生徒によって選択科目が異なる。しかし各教科とコア探究の連携によって、生徒の学びがストーリーとしてつながり豊かになることが明らかになった。たとえば以下のような生徒Aがいる。これは一例であるが、このような生徒は少なくない。生徒の学びのストーリーがコア探究でつながるといった視点が高校では重要である。

生徒A：高1 現代社会で社会課題としてマイクロプラスチックに興味を持ちプレゼン

高3 コア探究で自身問題意識から企業とコラボして、オーガニックマスクスプレーを開発。文化祭などを活用して販売した。

- ・昨年度まで同様、以下のような取組が行われ、コア探究と教科の連携によって取り組みがより良くなることが明らかになった。一方でコア探究の取り組みについて全教員が理解しているわけではなく、今後より連携を強化する必要がある。

国語：昨年度使用した論述課題のフォーマットを課題研究のテーマ設定で使用。3学期課題をコア探究と連動する形で、自分の研究テーマについて800文字～1000文字。内容は口頭試問などで確認し、書き方について国語という形で分担。文学総合でも文学×学問など特徴的な取り組みが実施された。

英語：学年末に自分でテーマを決めてスピーチするという取り組み。その際、コア探究での問いを立てることやテーマ設定での学びを活用した。

政治経済：授業の一環で宇治市議会への提言というのがある。コア探究で取り組んだ「宇治市魅力化案」を政治経済の授業でブラッシュアップして、市議会へ提言した。

地学や物理など：授業内で地学に関することで自らテーマを立ててレポートをまとめる取り組みを実施。

年度末の口頭試問と同じく、評価するルーブリックも事前に配布。

SDGs：授業内で生徒たちがグループでプロジェクトに取り組む。またその中に国際協働のものもあり、ISNと連動して取り組んだものもある。

なおコア科目「総合的な探究の時間」と各教科との関係・イメージ図は本文書末尾の資料1の通りである。

6) 年次研究計画

(下線部は当初の予定にはなかったが、実施状況を見て追加したもの。)

<p>第1年次</p>	<p><カリキュラム開発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生「コア探究Ⅰ」のカリキュラム開発、授業実践開始。 ・2年生、3年生「コア探究Ⅱ・Ⅲ」のカリキュラム開発。 <p><評価に関すること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価指標に関する研究（質問紙作成も含む）。 ・評価の研究（特にパフォーマンス評価、ポートフォリオ評価） ・生徒の学びと成長を評価するルーブリックの原案作成 <p><研究、教員研修、学外への公開、まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間の授業研究 ・国際バカロレア、特にTOK・CASを日本に導入するための研究。 ・先進校の視察（PBL授業、21世紀型教育、課題研究など）。 ・運営指導委員会、学内での勉強会、公開授業・公開研究会を開催（1回）。 ・成果報告冊子作成。
<p>第2年次 (平成31年度)</p>	<p><カリキュラム開発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生、2年生「コア探究Ⅰ・Ⅱ」の授業実践。 ・3年生「コア探究Ⅲ」のカリキュラム開発。 ・コアと各教科の取り組みの可視化。 ・I S N 2.0(*)の取り組みを教育課程内に取り入れる研究。「教育課程内と課外の自主活動を結びつけたPBL」の実施。 ・<u>マイプロジェクトin宇治開催（2校・8プロジェクト・50名参加）</u> ・<u>特活と総合を連動させたカリキュラム実施</u> ・<u>トモノカイとコラボしての教材開発</u> <p><評価に関すること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリックの完成。ルーブリックを用いての評価（高3に試行） ・生徒のリテラシー・コンピテンシーの変容調査、枠組み設計 ・<u>生徒の学習に向かう姿勢アセスメント実施</u> <p><研究、教員研修、学外への公開、まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間について、体制づくり、各教科への影響や波及効果、教員の成長についての研究 ・課題研究（プロジェクト）のアウトプットの間、高大連携の研究 ・運営指導委員会、学内での勉強会、公開授業公開研究会を開催（1回）。WVL学習発表会でもコア探究を報告。 ・成果報告冊子作成 ・ポートフォリオを成長につなげる仕組みやキャリアパスポート活用法の研究
<p>第3年次 (令和2年度)</p>	<p><カリキュラム開発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コア探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の授業実践とカリキュラム修正 ・<u>外部教材をカリキュラムに取り入れる研究（株）キャリアリンク「未来の社会を考える探究型プログラム」100年を創造するチカラ」</u> ・<u>リフレクション（各学年）のカリキュラム設計と実施</u> ・<u>マイプロジェクトin宇治などセカンドキャリアを意識したカリキュラム設計</u> ・<u>キャリア形成と密接に結びついた探究カリキュラムの研究</u> ・<u>探究の高度化につながるリフレクションや、探究に取り組んでのリフレクションについての教材開発</u> <p><評価に関すること></p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリックを用いての評価 ・パフォーマンス課題 ・キャリアパスポート ・コンピテンシー・リテラシーによる生徒の成長分析 <p><研究、教員研修、学外への公開、まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営指導委員会、学内での勉強会、公開授業・公開研究会を開催 ・課題研究高度化、中高連携、高大連携についての取り組みと検証を行う。 ・総合的な探究の時間を継続的に実施し、教員が育つための体制作りの研究 ・総合的な探究の時間の各教科への影響や波及効果についての研究 ・キャリアパスポート活用法やリフレクションのあり方についての研究 ・成果報告冊子作成（3年分の教材まとめ）
第4年次 (令和3年度)	<p><カリキュラム開発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コア探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」完成版テキストで授業実施。 ・中小企業庁「起業家教育実践校」 <p><カリキュラムマネジメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高接続、高大連携について、コア探究の知見をもとに取り組みを改良する。 <p><評価に関すること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の大学での追跡調査。 ・前年度の評価方法ふりかえり、改善一定着 <p><研究、教員研修、学外への公開、まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営指導委員会（3回程度）、公開授業・公開研究会を開催（1回） ・研究のまとめ。 ・4年間の研究報告冊子作成

* I S N 2.0とは「OECD日本イノベーション教育ネットワーク」の略称。OECD（経済協力開発機構）と文部科学省の協力のもと、21世紀型に求められる資質・能力を涵養するための新しい学びのモデルの開発などを行う。

7) 年次評価計画

第1年次	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム評価1（コア探究Ⅰのカリキュラムについて） ・教材評価1（主にコア探究Ⅰについて） ・生徒の実態分析1（進路意識、学びのスキルなど） ・教員の実態分析1（コア探究と教科の繋がり、教育目標理解など） ・授業実践評価1（外部評価、内部評価）
第2年次 (平成31年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム。教材評価2（コア探究Ⅱのカリキュラムについて） ・生徒の実態分析2（進路意識、学びのスキル） ・教員の実態分析2（前年度比較、コア経験有無による違いなど） ・授業実践評価2（外部評価、内部評価） ・研究仮説の検証と再構築
第3年次 (令和2年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム評価3（コア探究Ⅲおよび3年間のカリキュラムについて） ・生徒の実態分析3（進路意識、学びのスキル、コア探究の効果を測定する） ・教員の実態分析3（主に3年間の変化を測定する） ・授業実践評価3（外部評価、内部評価）
第4年次 (令和3年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・研究評価（生徒や教員の変化、カリキュラムマネジメント、評価指標への到達度、ルーブリックの妥当性など） ・卒業生の追跡調査（内部進学の子供中心に大学での様子を調査）

5 研究開発の結果及びその分析

「主な知見」として先述したことに加えて、「仮説の検証」「生徒への効果」「教員への効果」などを中心に分析したい。

1) 仮説の検証

研究開発にあたり以下のA～E5つの視点から20個の仮説を立てた。検証結果を以下に記載する。→以降が検証結果とその説明である。○が特に明らかになったことである。

A. アクティブラーナー育成のために必要なことに関する仮説

A-1 「総合的な探究の時間」の到達目標はアクティブラーナーの育成である。アクティブラーナー育成のためにはビジョン形成・スキル獲得などが必須であり、自らの人生をより良いものにしようとする高いキャリア意識、よりよい社会を創りだそうとするマインド、アカデミックに機能するクリティカルシンキングとアウトプットスキルの向上が必要である。

A-2 コア科目「総合的な探究の時間」で集中して生徒をアクティブラーナーとして成長させることにより、既存教科の単位時間を増加させなくても各教科におけるアクティブラーニングを通じた深い学びの実現が可能となる。

→1, 2ともに○。A-1にあるように、アクティブラーナー育成のためには、キャリア意識・マインド・アカデミックな力が重要である。これは学びみらいPASSの全国での結果分析からも明らかになっているが、本校の生徒にも同じことが言えた。また本校では新カリキュラム実施にあたり全体の授業時間を国・数中心に3年間で6単位削減し、総合の時間は3年間で2単位増加させた。しかし学びみらいPASSの結果、新カリキュラム実施以降、コンピテンシー・リテラシー共に向上した。コア科目の重要性を示唆する結果である。

B. 総合的な探究の時間が各教科の指導や教員に与える影響に関する仮説

B-1 「総合的な探究の時間」で育成した力が教科領域の学習でも活用され、いっそう伸びていく循環を生み出すことができる。

B-2 学年の教員がチームとして教科を越えて「総合的な探究の時間」を創造し、実践することにより、「教科学習を支え、教科学習に支えられる」(TOK指導の手引、IB)コア科目となり、教科学習に対する生徒の視野の広がりやアクティブラーニングの促進ができる。

B-3 教員集団は、「総合的な探究の時間」を指導する中で、教師力がアップし、自らもそれを自覚できる。各教科だけではなく全方位的に生徒の成長を見ることができるようになり、教科横断的指導も可能となる。

B-4 教員が「総合的な探究の時間」をチームとして指導する中で、教員集団のチーム力はアップし、学習する組織になっていく。

→1から順に○△△○。教科での学びが探究の時間でストーリーとしてつながることが明らかになった。学年の教員が実践することで、教科観の深まり、教科と探究をつなごうとすることは明らかになったが、実現については当該学年の教科の内容や教員の担当にも依拠するため○とはいえない。しかし教員集団のチーム力がアップすることは間違いない。

C. 総合的な探究の時間の内容や評価に関わる仮説

C-1 教員や生徒へのアンケート調査やインタビュー調査などによって、コア科目「総合的な探究の時間」が、コア科目として位置づく過程や、位置づくための条件が明らかになる。生徒にとって、コア科目と各教科の学びがどのようにつながるのか、教員にとって、コア科目の指導と教科の指導はどのようにつながっていくのか、またこれらをあわせて学校としてどのようにカリキュラムマネジメントが進んで行くのかが明らかになる。この結果から日本版コア科目の

あり方も明らかになる。

- C-2 育てたい資質・能力を評価できるルーブリックを作成し、それをを用いての評価を行うことは生徒を育てる上で有効である。また教員も評価についての理解が深まり、生徒の成長のための評価が実施されるようになる。
- C-3 総合的な探究の時間での生徒の作品等を蓄積することはキャリアパスポートにつながる。
- C-4 課題研究を完成させる「総合的な探究の時間」の営みは、大学におけるアカデミックな教育・研究において高度に機能する能力とスキルを高め、高大接続の改善につながる。
- C-5 課題研究の完成をゴールとせず、社会に発信し社会からのフィードバックを受けることで、生徒を社会と結びつけ、生徒の成長を促す。このことで大学以降も力強く学ぶ生徒を育てることができ、これは一般受験以外で大学に進学する生徒たちの高大接続モデルとなる。

→1 から順に△△○○○。コア科目として位置づく過程などについて、本校としての事例が明らかになった面はあるが、一例でしかないことも事実であり、よい検証が必要。またルーブリックについては作成と運用のそれぞれに課題があるが、それがあればより良い評価ができることは事実。一方でマイラーニングストーリーを見れば明らかのように、キャリアパスポートには確実につながり、論文やプロジェクト等の課題研究に取り組むことで、大学との接点も増え、高大連携が良くなることも間違いない。さらに課題研究の完成をゴールとしないことで、結果的に質が向上したことは明らかである。

D. 生徒の資質能力向上に関わる仮説

- D-1 「総合的な探究の時間」で生徒のコアを育て、アクティブラーナーを育成することで、生徒のキャリア意識は向上し、将来の見通しが無いという生徒は減少する。
- D-2 「総合的な探究の時間」で生徒のコアを育て、アクティブラーナーを育成することで、生徒のコンピテンシー（経験を積むことで身についた行動特性≒態度・技能）やリテラシー（知識を活用して課題を解決する力≒思考力）の力が向上する。この力は大学入学以降より重要なものであるため、その結果必然的に大学での成績（GPA）も向上する。
- D-3 TOKの手法を導入する「総合的な探究の時間」によって、生徒の思考力・言語力・問題発見能力が高まる。TOKから一貫して生徒に求めるクリティカルシンキングにより、メタ認知が向上し、自らとそれを取り巻く社会を俯瞰的・客観的にとらえる力の涵養につながる。その力は、生徒のキャリア意識や現実社会に対する問題意識の向上を促す。
- D-4 社会的諸課題の解決をテーマとする課題研究に高校2年生から一貫して取り組むことは、生徒の当事者意識を高め、社会的妥当性や説得力の向上、および社会貢献への展望などにつながる。

→1 から順に○○?△。コア探究実施後に、将来の見通しが無い生徒が減少し、コンピテンシーやリテラシーが向上した。一方TOKの手法導入と生徒の資質・能力の向上については分析できていない。それはTOKの手法が高1コア探究で部分的に導入したにとどまっていることもある。また課題研究に取り組むことは生徒の当事者意識を高めることなどにつながるが、高2から一貫して取り組んだ結果ではない。むしろ社会的諸課題と限定せず、生徒のマイプロジェクトを大切にしたい取り組みであること、高2中心に課題設定に時間をかけることが大切であるということが明らかになった。

E. 本研究の普及に関する仮説

- E-1 本研究の成果は教材化することができ、そのことで持続性・汎用性が高まり、広く活用される。この結果本研究の成果が次期学習指導要領「総合的な探究の時間」のモデルカリキュラム、モデル実践の一つとなる。
- 。本研究の成果は教材となって蓄積されているが、他校でも部分的に導入されている。またこの間の視察受け入れ数、問い合わせ数などからも、本校の取り組みはモデル実践の一つとなっている。

2) 生徒への効果

主に(1)生徒の記述(2)生徒のキャリア意識の変化(3)学びみらいPASSの3つの調査から生徒の実態把握や効果を分析した。最後に生徒の感想で多かったものを掲載する。

(1) 生徒の記述からコア探究でついた力を考える

①コア探究の授業を通じてどのような力がついたのか?

(コア探究Ⅰ)

* 問いを立てる力 * 課題を解決する力 * 考える力 * 人としての力 (CSL)

(コア探究Ⅱ)

* 考える力 (将来、社会、興味など) ・ 書く力 (論文など) ・ 計画や行動する力

(コア探究Ⅲ)

* 考える力 * 文章力 (論文を書く力含む) * 問いを立てる力 * 発想力

* 情報を調べる力 * 人に伝える力 * 行動力 * 自分を見つめる力

(3年間のコア探究でついた力)

* 考える力 * 情報収集力 * 課題解決力 * 自分を見つめる力 * コミュニケーション力

* 問いを立てる力 * 書く力

3年間を通じて「考える力」が向上したと生徒は実感している。その他のものも含めて、学力の3要素の「思考力・判断力・表現力」にあたる部分が向上したと生徒は感じている。また今年度の高校3年生は昨年度と比べて「行動力」「自分と向き合う力」と書いている生徒が増えていた。これを書いている生徒の多くはプロジェクト等で学校の外とつながる学びをした生徒たちであるので、マイテーマで社会とつながる視点を持つことで、コア探究でも「学びに向かう力が育つ」だろうことが推測できる。

なおコア探究Ⅰでは2単位を1単位ずつに分割し、1単位分を「CSL(キャリア教育授業)」、もう1単位分を「コア(探究)」として運用している。特にCSLでは「生きていくうえで大切なこと」「自分自身について考える力」など、学力の3要素でいえば「学びに向かう力」にあたる力がついたとの回答が多かった。これは実施以来ずっと同じである。ここから、生徒はコア探究の授業を通じて「思考・判断・表現」の力が育ったと感じているが、特にCSLについては「学びに向かう力」が育ったと感じていることがわかる。カリキュラムマネジメントを考える上で、総合とキャリア教育を含む特別活動がどちらも重要であることがここからもわかる。

②なぜコアの授業があるのか

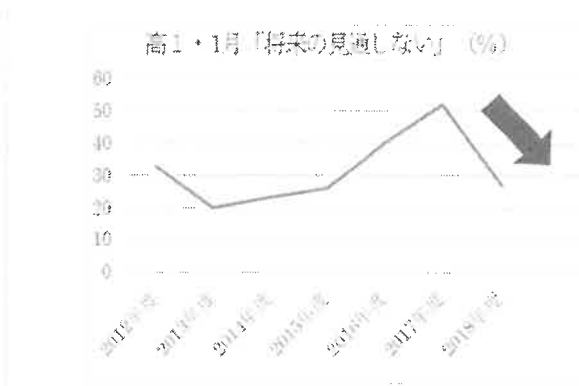
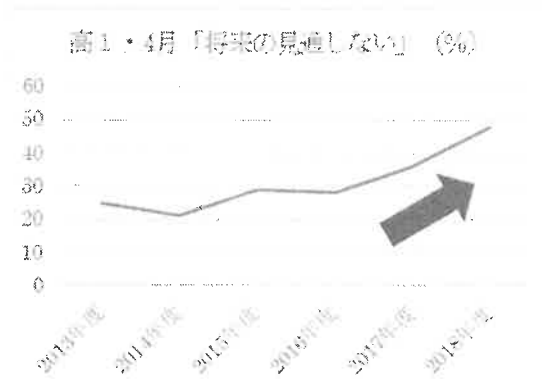
学年に関係なく「すべてにつながるから」「他教科で学べないことだから」「将来大切なことを学ぶ」という記述が多かった。後輩への助言は「真剣に取り組んでほしい」「取り組んでいるうちに重要性がわかる」など生徒たちがコア探究を重要と考えていることがわかる記述が多かった。3年生は「コア探究はすべての学びにおいて自分自身の核となる考え方を身につけるために学ぶ」「コアとは中核という意味を持ちますが、生きていく上でコア探究で学んだことは中核になると思います」など人生の根幹であるという記述も多く見られた。

(2) 生徒のキャリア意識の変化

桐蔭横浜大学学長の溝上慎一先生は「大学入学時に将来の見通しを持っているかどうか、その後の成長にとって重要であること」「大学4年間で将来の見通しはあまり変化しない」ことを明らかにした。これは高校時代に将来の見通しを持てるかどうかの重要性を示している。本校では2013年の～2015年度のキャリア教育指定の効果測定の際にこの数値を使用した、途中数年間

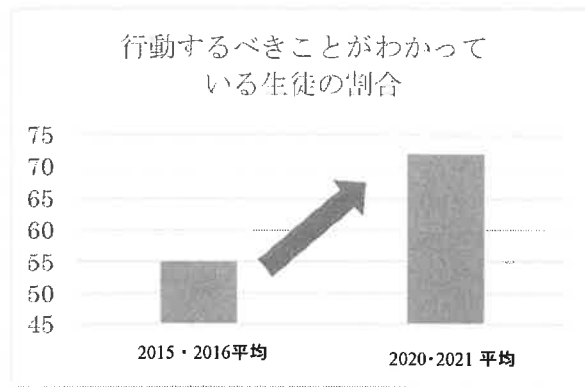
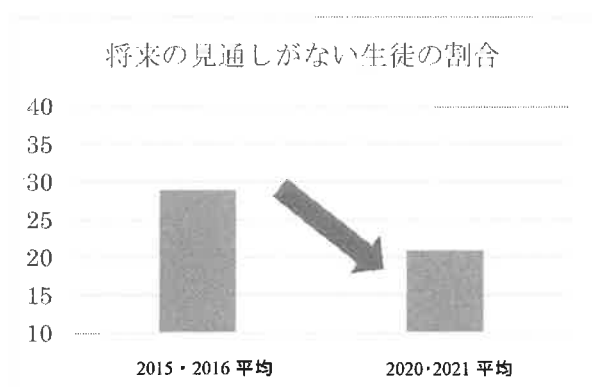
の空白はあったが、調査は継続している。コア探究1期生（2018年度入学生）の将来の見通しについて、高校入学時（高1・4月）・卒業時（高3・1月）の2地点での調査結果から考察したい。

<高校入学時>



上の図が高校1年次における「将来の見通しがない」と答えた生徒の割合である。近年急速に入学時に「将来の見通しがない」生徒が増え、2017年度は40%近く、2018年度は48%であった。原因はわからないが、これは「まじめで素直だが受け身な生徒が増えた」という教員の感覚とも一致する。しかしコア探究を実施したことで、高1終了時における「将来の見通しがない」という生徒は52%→27%と激減した。コア探究がキャリア教育の要素を十分に含んでいたこと、学年全体で取り組んだことも大きいのだろう。

また、高校卒業直前に「将来の見通しがない」と答えた生徒の割合が下の表である。2017年度～2019年度は高3のデータがないため、ここでは2015年度・2016年度の平均（2013年度・2014年度高1）と2020年度・2021年度（コア探究1・2期生）の比較を行いたい。

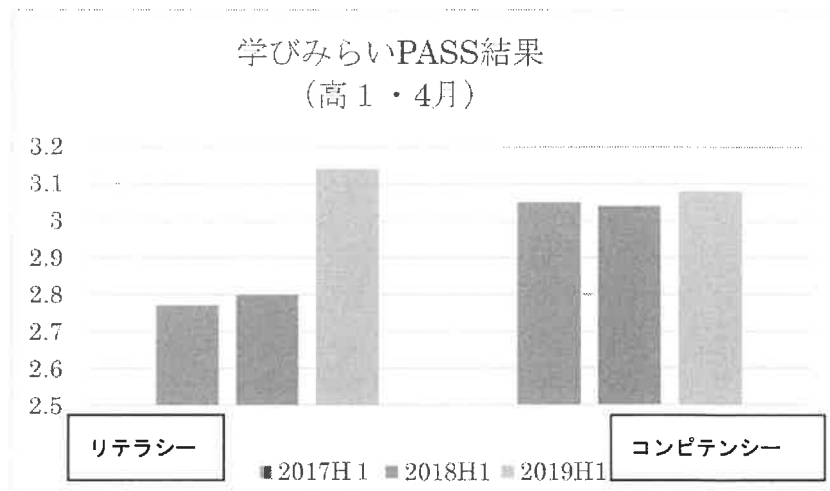


上のグラフからわかるように、2020年度・2021年度卒業生は過去と比べて卒業時に将来の見通しがない生徒が減少（29%→21%）している。入学時では「将来の見通しがない」生徒が増加していることを考えると、生徒が大きく変化していることがわかる。

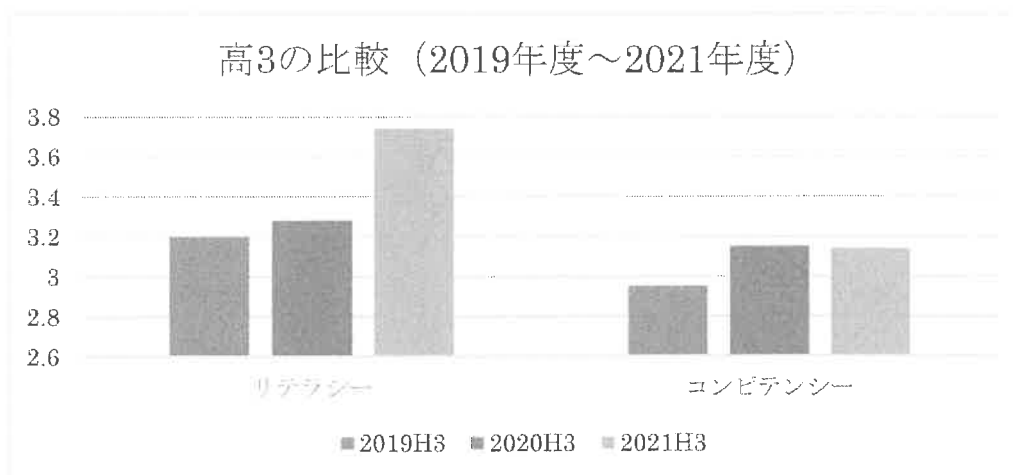
またこの調査では将来の見通しがある生徒についても「将来に向けてとるべき行動がわかっているかどうか」も聞いている。その結果が右のグラフである。「将来の見通し」を持つだけでなく、「将来に向けて行動するべきことがわかっている」生徒も増えている（55%→72%）。

(3) 学びみらいPASSによる実態把握

2017年度より学びみらいPASSを高校1年生の4月に受験している。学びみらいPASSはこれからの社会で求められる力を測定するために河合塾が開発したテストである。「知識を活用して問題を解決する力（リテラシー）」と「人と自分にベストな関係をもたらそうとする力（コンピテンシー）」を測定する。大学でも広く実施されていることから、大学生との比較もできる。下のグラフの結果から2017年度（コア探究実施前）と2018年度（コア探究1期生）で入学時点での生徒の差はほとんどないが、2019年度入学生（コア探究2期生）はリテラシーが過去2年より少し高いことがわかる。



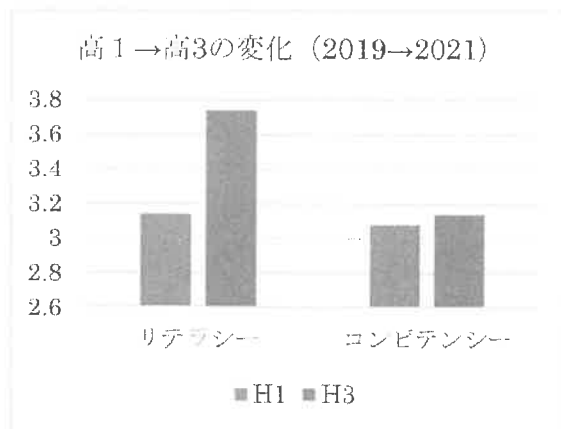
コア探究は2018年度より実施しているため、それぞれの学年が卒業する際のテスト結果にはコア探究の取り組みが影響を与えることになる。下が2019年度（コア探究実施前）の高3と2020年度・2021年度（コア探究実施後）の生徒の状況である。



このグラフから、コア探究実施後、コンピテンシーは確実に向上し、リテラシーは2020年度微増、2021年度優位に上昇していることがわかる。なお2020年度もリテラシーは全体としては微増であるが、下位項目を見ると特に「情報分析」や「構想」力が上昇していた。コア探究実施による影響は大きい。

では3年間を通じての生徒の成長はどうだろうか。右のグラフが高1→高3でのリテラシー・コンピテンシーの変化である。

本校の生徒は入学時にコンピテンシーが高い反面、リテラシーに課題を抱えているが、高校での学びを通じてリテラシーの数値が向上していることがわかる。これは昨年度も同様の結果であった。学びみらいPASSにおけるリテラシーは知識を活用して課題を解決する力である。これは学力の3要素でいえば2つ目の「思考力・判断力・表現力」に他ならない。



★生徒の感想で多かったもの

昨年度同様、学習を進めるうちにコア探究の意義がよく分かったという生徒が多かった。特によく見られた感想は次のようなものである。ここでは高校3年生について記載したが、高1・高2についても、自分の将来にとって大切な授業であったとの感想が多かった。

（コア探究Ⅲ）

- ・お客様からの脱却ということ意識して自分から提案したり他の人にアイデアを出したりと自分が受け身にならないように意識することができた。また、学ぶ意義であったりポスターセッションで伝えたりと基礎から将来まで繋がる学びを学ぶことができた。
- ・入学当初は、コア探究やCSLなどを学んで将来に役立つのかなと思っていました。しかし、学習することで物事の根本となる部分を考えるようになり、疑問が生まれる行動に移そうとするようになりました。
- ・これからの人生において、絶対役に立つことを教えてもらえた。普通学校では教えてくれないことをしっかり吸収できたと思う。
- ・他の学校ではできない有意義な学びができた。コアで身に付けた力や経験は人生において武器になると思いました。

3) 教師への効果

過去3年間の取り組みから教員集団の変容として「学習する組織の実現」「他教科を知る」「授業力向上」「教科指導への影響」の4つがあげられることが明らかになった。また2年間担当するとカリキュラムマネジメントの視点を自然と持ち、3年目になると学校全体のカリキュラムのことを意識するようになることも明らかになった。そして4年目になると教員が探究を核とした学びのストーリーに気づく。以下が今年度担当した教員の感想であるが、各学年総括のページにも教員の意見は掲載されている。

教員の感想（高2・高3） 高2は授業内容、高3はコアに取り組む上での考え方を中心に

（★は研究主任より補足）

（高2）

- *この1年間で取り組んだ全てが高2生には必須の取り組みだと思いました。
- *今年は2名の若手教員が中心となり授業運営を担いましたが、昨年度のようにパワポ作成や自己紹介等で担任全員が授業計画や運営にかかわる所がもう少しあっても良かった。1つ1つのプロジェクトには真摯に取り組みそれなりの気づきが得られたと思いますが、それが積みあがっていない生徒が多いのかなと感じました。
- *共通の教材は便利であるしブレも少なくてすみますが、担任が様々なアイデアを加えて運営

し、それを交流し合う方が全体も高まっていくのではないかと考えます。そのための時間を確保する（コアは本来1コマの授業を2コマカウントしてもいいような内容であると思う）こととセットで考えないといけないと思いますが…。

* もっと教員などいろいろな人が生徒にフィードバックを与えることができれば深まるだろう。

★生徒の個人差については昨年度同様の課題ではあるが、なるべく手間をかけない運用の功罪も明らかになってきた。しかし総括では意見として教員の負担が出ることが多いはずである。「もっと生徒への指導を」という感想が出るのは実は大きな成果かもしれない。

（高3）

・「論文を書くこと＝コア」のように生徒の意識が流れていき、コアの学びの目標が何だったのかを見失う感じになっていたように感じた。「問いを立てて論理的に考察する」ことや「問題解決に結びつけていく」ための「思考の整理と表現」という、IBで言うところの本来の TOK・CAS・EE の関係が薄れていたように写った。

・コアの授業が特別なものではなく、日頃の教科の授業の延長であることの意識を生徒だけでなく教員ももって授業に臨むべきであると感じました。

・プロジェクト、起業型については、今後IGコースの大きな柱となる。生徒自身が、プロジェクトを『自分事』となり取り組んだ結果が、多くの成果につながった。初めから『賞』狙いになると違うことになるかと思えます。大切なマインドの部分が今年度こうしてつくっていくことができたかと思えます。

・担任やコア担当者だけでなく、3年間のコアカリキュラムを全教員が理解し、進めていく必要がありました。

・自分自身、受験で立命に入っているので、大学でのレポートが大変だったことをおぼえています。一年間指導をしてきて、彼らの、高校在学中に論文を書くというこの経験は大変なアドバンテージであると感じます。

・受験学力では敵わない附属校生徒の強みを鍛える授業だなあとつくづく思いました。

・秋くらいの段階で、各担当の中での優秀候補の論文交流をしても面白いだろう。あ～、あそこのゼミではこんな論文書く生徒がいるのかあ～的な交流会があっても面白い。ただ、働き方改革で勤務の制約が益々強くなりこういうことは推奨されないのだろうが。

・生徒への関わり方。教員側が口を出しすぎると絶対にうまくいかない。

・外に出る情報は輝かしい受賞歴や販売実績などですが、その過程はものすごく地味な作業や打ち合わせの数々でした。

4) 保護者などへの効果、その他の成果

(1) 保護者などへの効果

学校HPや学年通信などでコア探究の取り組みについて情報提供している。コロナ禍ではあったが、生徒の学びの成果を保護者に見てもらえる場も設定した。こうしたことは保護者アンケートでの数値にも表れている。

(2) その他の成果：4年間で多くの成果を残している。たとえば以下のようなことがある。

* メディアなどへの紹介

コア探究のカリキュラム開発について、日本教育新聞で合計4回連載された。またベネッセ総合教育研究所のHPへの掲載など、様々な場面で取り上げていただいた。

* 他校への影響

今年度はコロナ禍であったが、10校程度の視察を受け入れた。またオンラインでの公開研究会を実施し、合計100人を越える参加があるなど、広く成果を発信した。この他に学校外でのコア探究の取り組み報告を、今年度だけでのべ学外の700人以上の先生方に行った。4年間で少なくとも2500人の先生方に取り組み報告をし、50校（団体）以上の視察、500人以上の公開研究会参加をしていただいた。

* 対外的な場での生徒の活躍

特に大きなものは以下の2つである。他にも対外的な場で様々な出会いをした生徒が確実に増えてきている。

- ①「CHANGE MAKER U-18 未来を変える高校生 日本一決定戦」（TV 東京）にて日本一
- ②「Japan Challenge Gate2022～全国ビジネスプランコンテスト～」経済産業大臣賞（日本一）

6 今後の研究開発の方向

以下の5点があげられる。新学習指導要領に向けて取り組んできた成果が来年度から問われる。

1) コア探究の位置づけ・取り組みの共有について。

この間の取り組みから、コア探究の実施を学年というチームで実施することにより、教員はコアを意識し、自分の教科とつなぐことが明らかになった。今後は学校全体でコア探究をコアと位置付けたカリキュラムマネジメントを進めることが重要である。キーワードは学びのストーリー作りであろう。コア探究の取り組みを教員が理解することも重要である。

2) 探究の力の深まり方、個に応じた指導など

生徒の個人差が大きく、習熟度のような指導の提案も教員からされている。ただ個人差については教員の印象にとどまっていることが事実で、生徒の探究する力について、その高まり方をロジカルに可視化することが重要である。

3) 新指導要領の実施に向けて

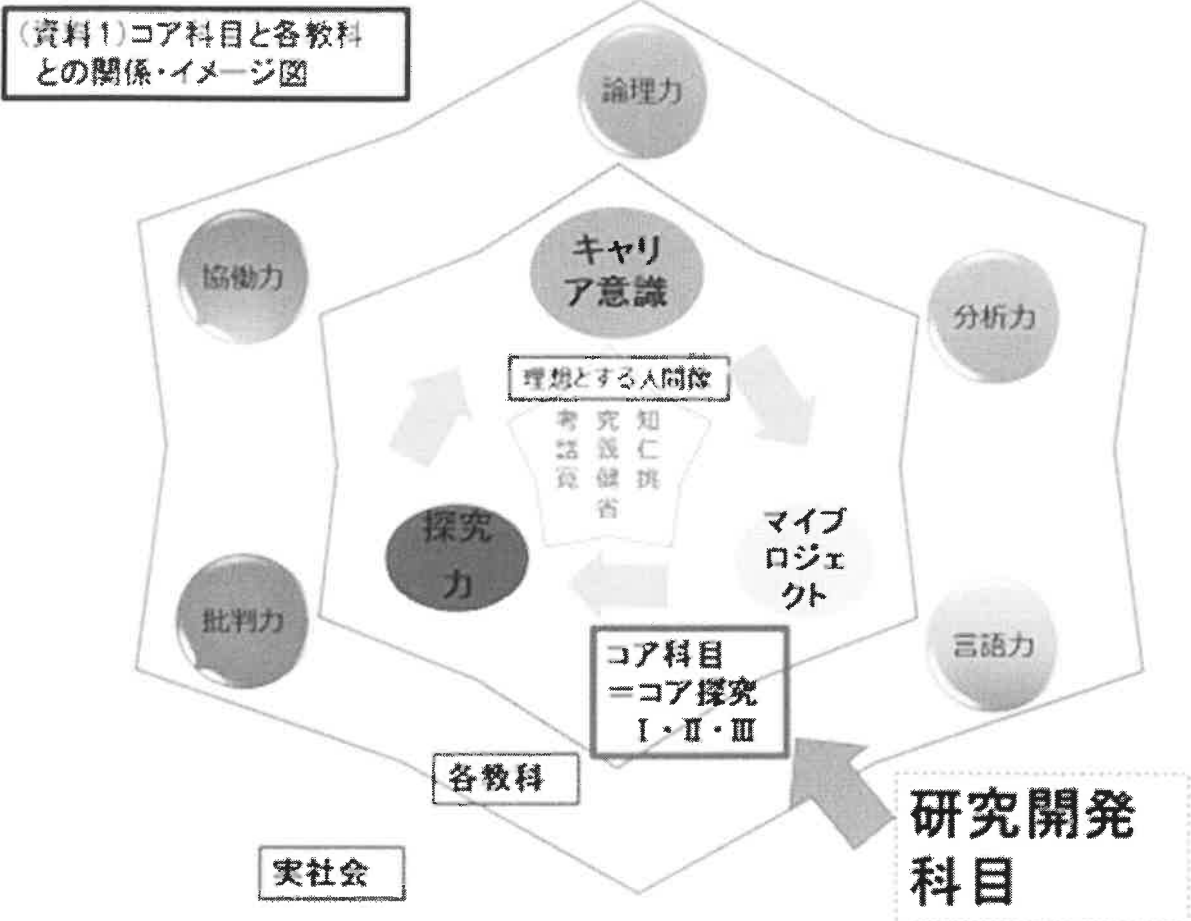
総合的な探究の時間を「思考・判断・表現」の力を育てることを意識したカリキュラムにし、同時に特別活動・キャリア教育で「学びに向かう力」を重視することが重要である。したがって、キャリア教育の要素を含んだ本校のコア探究は教育課程の「コア」であり。日本の学習指導要領においては「キャリア教育の視点」を十分に含んだ総合的な探究の時間と特別活動がIB教育におけるコア科目の役割を果たす。

4) 学びのストーリーを創るという視点

生徒たちの学びのストーリーがコア探究によって豊かになることが明らかになった。選択科目が多い高等学校ではカリキュラムマネジメントと一言でくりにくい実態があるが、各生徒のストーリーをつなぎ豊かにするという視点で取り組めばいいという仮説ができた。ストーリーは生徒によって異なるので、個別最適な学びは当然のことである。

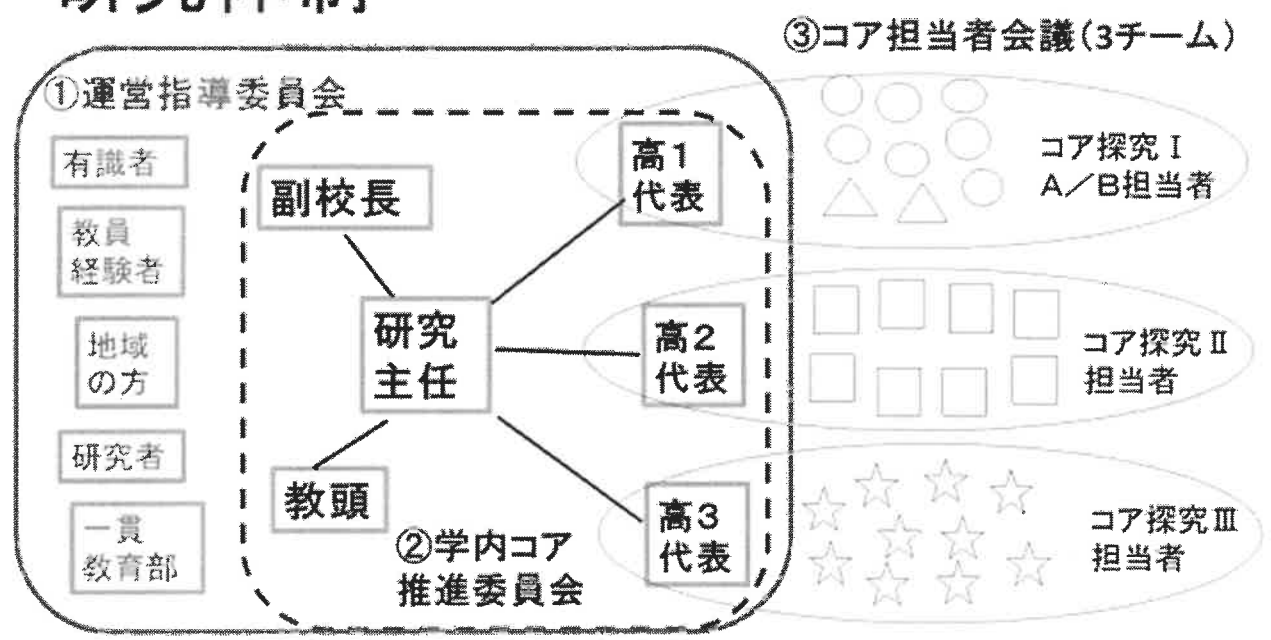
5) その他（汎用性と独自性。研究としての位置づけ強化）

コア探究Ⅰ・Ⅱで開発したカリキュラムは汎用性があり、多くの学校で実施可能な内容である。一方コア探究Ⅲの後半期に実施を予定している内容は、入試ではない形の高次接続を意識したものであり、一般入試で多くの生徒が進学する学校では実施が難しい。このように研究開発だからこそ、汎用性と独自性を意識することが重要である。今後研究としての位置づけを強化することで、多くの学校にとって有用な知見が得られる。



(資料2) 研究体制

研究体制



CHANGE MAKER V-18
未来を変える高校生 1年一
次生戦、優勝 (TV東京)

廃棄苗×教育

3年 田中 愛乃
福田奈津実

全体の苗の約1~2割が廃棄苗

- ①発芽率などの関係で余剰苗ができる
- ②規格外、売り先がない

廃棄苗で野菜のおいしさ
を知ってほしい！

児童養護施設×
廃棄苗



子供たちが楽しく
フードロスの問題に
ついて学んでくれ興
味を持ってくれた



小学校を通して、
より私たちのやりたいこ
とを明確にできた

も
っ
た
い
苗

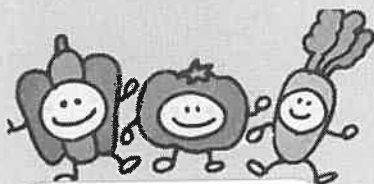
今後の展望

もったい苗×教育を小学校へ

フードロスと食の大切さを知る
機会、SDGsの学びを食育キット
を用いて子供たちに伝える

感想

コア探求を通して、行動することの難しさ
や人との繋がりの大切さを強く感じた
やりたいことを後悔なくできるように全力
を尽くしていきたい



Twitterアカウント



画期的な見守りデバイス

～Radiance Stick～

6組 西村 7組 佐藤・宮下



概要

杖で危険を察知し危険を知らせ、家族に連絡が入る安全・緊急連絡システムを作る。また杖だけでなく他の商品にも、同等の機能を使える軽量の製品も作る。

現状

・杖を使われている方が家庭内外において階段での転落転倒による搬送が増加している。

→そこで、利用者だけでなく、家族や周辺の方が利用者に持つ不安を軽減する方法を考えた。

仮説・目指す社会

・杖にセンサーを取り付けることで、利用者が少しでも安全に過ごせるようにする。また、非常時に素早く対応できるシステムを開発する。

・人々が手を取り合う温かい社会を目指す。

結果と考察

1.搭載する機能

・主に「障害物や転倒を検知しメロディーでお知らせする機能」、「家族への緊急連絡システム機能」、「位置情報の記録や確認できる機能」の3つを搭載する

・「一人一人に合わせた機能、最小限のシンプルな設計、様々な用具に付けれる」がこの商品の特徴。



2.デモ機の製作

・当初は、杖にセンサーを埋め込む予定で製作していたが、杖ユーザー以外にも活用できることに気づき、外付け型のデバイスに変更。杖以外にもリュックや車いすに付けることも可能になった。

・回路設計とプログラミングを行い、一部機能の実証実験を行った。
→問題なく動作した。(実証実験の様子はYouTubeに掲載し、各企業の方々が閲覧できるようにした)



3.起業プランの作成

・機能・販売方法・収支計画を明確化するため、京都府警察や杖販売店での実態調査を行いその結果を基にプランを作成。→満足できるビジネスプランが完成した。

今後の予定

- ・商品を実際に完成させる
- ・価格設定や広告方法等の再検討

残された課題

- ・Bluetooth等を利用して、LINEや専用アプリに家族に連絡がいくシステムを上手に作れるか
- ・資金調達と増産方法(ビジネスとして)

先行事例

- ・オートボックスのIoT白杖 →その場で助けを求めることが不可能
- ・Walkyの学生が開発した白杖 →自分で避けることを促すもので、周りによる助けが不可能

プロジェクト実績

- ・「高校生ビジネスプラン・グランプリ」 ベスト100受賞
- ・「Japan challenge gate」経済産業大臣賞 (日本一)

2/23 (月)

食品ロス野菜苗を生かそう

立命館宇治高生

廃棄予定品譲り受け 児童施設に寄贈

立命館宇治高(宇治市)の生徒らが、植え付けに最適な時期が過ぎるなどして廃棄されてしまつた野菜苗を園芸店から譲り受け、児童養護施設に寄贈する活動を始めた。児童らと苗を植えたり、食べ物の大切さを学んだりする活動として「楽し

どもは3年の福田泰博さん(18)と久御山北川順と田中乃さん(17)と京田坂山真。福田さんは苗を育てる農家を探したいと考えた。友人同士である人の父らを手伝つ中で、首を過ぎるほど処分される苗に「食品ロス」の種類。無駄にせず

甲さんは教員に関心があり、親と暮らすなど、甲さんが豊かさを伝えるために支

問題考える契機に

店交渉したが、「食品なので無料では渡さない」と約15店に断られた。だが、精華町北郷八間の「愛菜家族精進店」が「よく育つか分からないが、植物に親しむきっかけに」と答へた。

7月上旬、種をのび適した時期が過ぎかけたので、一部が折れたりした苗約40本を特別に譲られた。園内で毎年約600万の食品が廃棄されていることを経団連の「桃山学園」に届けた。

8月上旬にも約60本を寄贈し、幼稚園児と小学生の人と野菜をテーマにしたなるだろくを楽しんだ。園内の畑で一緒にキウイやトマト、サルミアキなどを植え、児童らは「知らない野菜だ」「水やりしたい」と喜んでいた。

7月に贈ったトマトは既に実っており、同学園職員が栗辻務さんは「みんなが採った野菜は買ったもので以上に食べてくれる」と感謝を述べた。



児童養護施設に苗を寄贈し、一緒に植え付ける福田さん

後にも収穫などして交流を続けたい」と語った。

GOGO
高校大学

大道美乃里さん、 河村朱莉さん、川崎七海さん

（立命館宇治高校3年）

立命館宇治高校（京都府宇治市）の3年生、大道美乃里さんたちは、飼い主に捨てられるなどして引取先が見つからず、殺処分されてしまうペットを減らすための啓発活動に取り組んでいます。「一匹でも多くの命を救いたい」という思いで、活動を続けています。（浴野朝香）

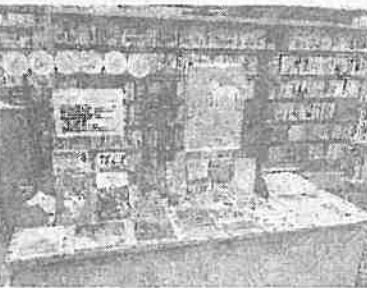
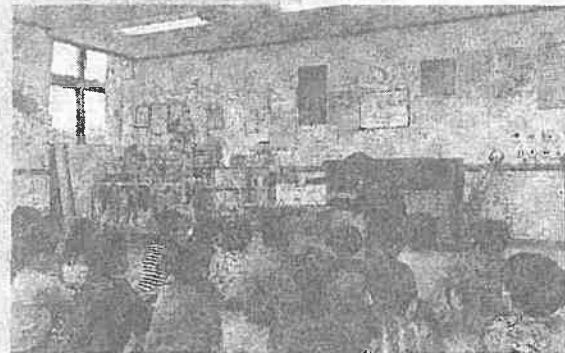
殺処分されるペットを救いたい



保育園児たちにペットに関するクイズを出しました



ペットの殺処分を減らす活動を進めている河村朱莉さん、大道美乃里さん、川崎七海さん（左から）が提供したどれも大道さん提供



校内の図書室に動物愛護のコーナーを作りました

保育園児たちに絵本の読み聞かせをしました

マイプロジェクト

全国の高校生が身の回りの課題や関心をテーマにプロジェクトを立ち上げ、実行する探究学習プログラム。年に1度、活動を発表するイベントを開催しています。カタリバでは、マイプロジェクトを始めた中高生向けの無料プログラムも運営しています。詳しくはこちら（<https://katariba-tomis.online/>）。

「マイプロジェクト」を知りたい人は、まず「課題」を明確にする必要があります。課題とは、自分が抱えている問題や疑問のことです。例えば、「ペットの殺処分を減らすにはどうすればいいか」というのが課題です。

課題が決まったら、次に「目的」を設定します。目的とは、自分がこの課題を通して達成したいことのことです。例えば、「ペットの殺処分の現状を調査し、その原因を明らかにすること」が目的です。

目的が決まったら、次に「計画」を立てます。計画とは、自分がこの課題を達成するためにやるべきこと、やる順番、やる時期のことです。例えば、「まずはペットの殺処分の現状を調査すること」が計画です。

計画が決まったら、次に「実行」を行います。実行とは、自分がこの課題を達成するためにやるべきことを実際にやることです。例えば、「ペットの殺処分の現状を調査すること」を実行します。

実行が終わったら、次に「評価」を行います。評価とは、自分がこの課題を達成するためにやったことが、本当に課題を解決したかどうかを判断することです。例えば、「ペットの殺処分の現状を調査すること」が、本当に課題を解決したかどうかを判断します。

評価が終わったら、次に「発表」を行います。発表とは、自分がこの課題を達成するためにやったことを、他の人にも伝えることです。例えば、「ペットの殺処分の現状を調査すること」の結果を、他の人にも伝えます。

「実態を知って」調査し伝える

大道さんたちは昨年5月に、マイプロジェクトの総合的な発表の時間、ペットの殺処分の現状をテーマに活動を始めた。

まず、さあかには、ペットに関するニュースを見たり、SNSの発信を見たり、ペットの殺処分の現状を知るために、まずは「実態を知って」調査し伝えることにしました。

SNS発信、保育園で講演も

まずは学校の先生や保護者の人たちに、SNSの発信をしてもらいました。保育園でも講演を行いました。

まずは学校の先生や保護者の人たちに、SNSの発信をしてもらいました。保育園でも講演を行いました。

まずは学校の先生や保護者の人たちに、SNSの発信をしてもらいました。保育園でも講演を行いました。

まずは学校の先生や保護者の人たちに、SNSの発信をしてもらいました。保育園でも講演を行いました。

まずは学校の先生や保護者の人たちに、SNSの発信をしてもらいました。保育園でも講演を行いました。

まずは学校の先生や保護者の人たちに、SNSの発信をしてもらいました。保育園でも講演を行いました。

まずは学校の先生や保護者の人たちに、SNSの発信をしてもらいました。保育園でも講演を行いました。

まずは学校の先生や保護者の人たちに、SNSの発信をしてもらいました。保育園でも講演を行いました。

まずは学校の先生や保護者の人たちに、SNSの発信をしてもらいました。保育園でも講演を行いました。

まずは学校の先生や保護者の人たちに、SNSの発信をしてもらいました。保育園でも講演を行いました。

まずは学校の先生や保護者の人たちに、SNSの発信をしてもらいました。保育園でも講演を行いました。

まずは学校の先生や保護者の人たちに、SNSの発信をしてもらいました。保育園でも講演を行いました。

まずは学校の先生や保護者の人たちに、SNSの発信をしてもらいました。保育園でも講演を行いました。

高校生ビジネスプラン

経産大臣賞に立命館宇治高



受賞した立命館宇治高の宮下晃有さん
(写真中央)ら

経済産業省・中小企業庁は全国の高校生がビジネスプランを競う「ジャパンチャレンジゲート2022」の最終審査会をオンラインで開いた。経済産業大臣賞に立命館宇治高校、中小企業庁長官賞に京都先端科学大学附属高校の生徒によるビジネスプランをそれぞれ選んだ。

最終選考に残った全国の高

8チーム最終審査

校8チームがビジネスプランを審査員にプレゼンした。経済産業大臣賞を受賞した立命館宇治高校の宮下晃有さんら3人のグループは高齢者が使う杖などに装着して使う転倒防止機能などを搭載したデバイス事業を提案した。宮下さんは「事業化に向けた活動を続け、多くの人を救いたい」と述べた。同大会は高校生の起業機運を高める目的で開催され、今回は121件の応募があった。

企業庁長官賞は京都先端科学大附属高

3/21

日本工業新聞

コア探究紹介資料
(広島女学院教員研修から)

「探究を探究する」 ～立命館宇治の取り組み～

Your Link to the World

酒井 淳平
立命館宇治中学校・高等学校
(キャリア教育部長・研究主任)
junpei@ujc.ritsumei.ac.jp



なぜ今「探究」なのか？

- ①時代の変化？ (答えのない問い/大きな変化)
- ②入試の変化？ (習得では新入試が乗り切れない)
- ③新学習指導要領？ (探究という科目設置)
- ④ブーム??? (①～③の結果何となく探究)
(実話あり!)

「①～③は未来を拓く探究(導入編・実践編)・ベネッセ」より



今日のキーワード

①筋トレの法則

これがカリマネ!?

②ゴールはどこにあるのか？

③影響の輪

→学校は一人の生徒がいろいろな先生と関わる。
学校としてどうかが重要 (サッカーユースチームの例)

これがカリマネ? (野球も)

かしこさの定義が違っているという現実

	旧来の学校教育	大人の社会 <small>探究的な学び</small>
どんな課題が出るか？	指示された範囲内	自分で見つける 目的は自ら確認する
誰と解くか？	ひとりで解く	チームメンバーと協働して考える
解いてる間は？	無言	コミュニケーションしまくり
答えは？	ひとつ (である場合が多い)	ひとつじゃない 最適解を考えて、PDCAを回しながら見定める
道具は？	鉛筆と消しゴム	使えるものは何でも使う
わからなければ	教えてもらう	自分でアドバイスをもらえる人を考えて、自分から探しに行く

(株)トモノカイ神原さま 教員研修スライドから

5

実は特別な体制はない!

日々
こんな感じです...



コア探究は昨年度まで学年主任の仕事。
今年度からキャリアの仕事。それって、...

探究ブーム? ≡ キャリア教育ブーム?

何かしろと言われる	忙しくなる(という感覚を持つ)
形が優先される	特定の教科でやるものではない
イベントや課題研究をやればOKという誤解	いろいろなレベルをごちゃまぜにして語られる
そんな余裕はない!と言われる	評価が課題と言われる

学校を変える起爆剤になりうる

これからの教育を考える大切な視点!



探究は学校を変える！ (キャリア教育の歴史に学ぶ)

キャリア教育によって生徒が伸びた学校は多い！！
(例を上げればきりがありません)

徐々に浸透し、気がつけば学校教育の中身は大きく変わっている
(自分が生徒のときにはなかった取り組みが全国で普通にされている)。

ポイント

探究も同じ！？

➔

生徒の実態と将来を見据えられるか？
学校全体で取り組めるか？

R

コア探究実施までの流れ(ここ数年)

1994年度 学校法人立命館と合併
→学校大改革、先進的な取組多数

①2013年度 CSL (キャリア教育授業) 開始
(文科省研究指定を受けての取り組み)
⇒生徒の成長+多くの学校に広がるという予想外の成果あり！

↓

②2017年1月 カリキュラム委員会スタート
(若手～中堅教員がチームとなって次の学校作りを考える)
⇒似たような問題意識！コアの必要性が共通認識になる！

↓

③2018年度 新カリキュラムスタート
(文科省の研究開発指定校として総合的な探究の時間のモデル作り)

探究だけをしたいのではない

R

本校の今の結論

なぜ探究なのか？

お客様

生えてもらう

自由に依存

意思は取組む

➔

生産者

自ら取組む

より主体的

生徒を生産者に育てることが重要！
これは探究もキャリア教育もまったく同じ！
(教師が生産者であるかを問われている点も？)

R

すべてに共通した課題がある！ (クラブや教科固有の課題ではない)

生徒

➔

生徒

教員

➔

教員

教員：コアが教科を超えた教員の繋がりの場
→教員集団の力量UP!!

R

立命館宇治中高について

- ・IB認定校、SGH指定
- ・6人に1人は帰国生
- ・研究開発学校→WWL指定校
- ・陸上部、野球部などスポーツ
- ・内部進学生徒も多い
(受験にしばられない)←メリット??

多様な生徒が
世界水準で活躍

R

教員アンケートからわかったこと

生徒の現状： 従順だが口をあけて待っている

↓

探究

お客さま

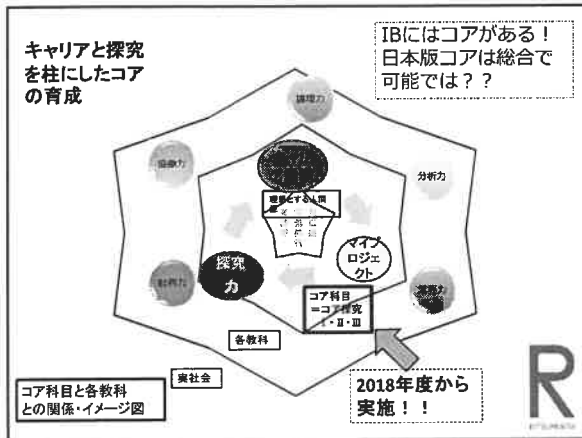
育てたい生徒像：

意欲 (学ぶこと・人生そのもの) にあふれ、
自ら学び行動できる生徒

生産者

R

探究でお客様を生産者にする！



(授業スライドから)

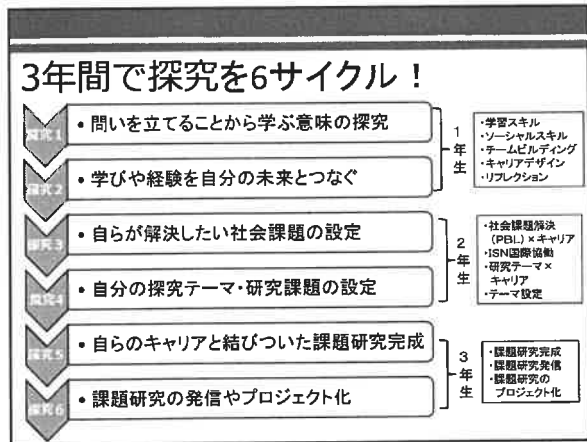
問いを立てる授業の大まかな流れ

～先生は毎回変わります！～

- ①担当の先生から今日の授業の質問作りの目標、教科を学ぶ意味について (1) (12分程度)
- ②先生の話に対して質問を作る (10分)
<質問作り・前半>
- ③質問にも答えながら担当の先生から教科を学ぶ意味について (2) (10分)
- ④先生の話に対して質問を作り、それに答えながら話をまとめる (13分)
<質問作り・後半>
- ⑤まとめ、今日の気づき記入 (5分)

情報収集
↓
整理・分析
↓
まとめ
↓
課題設定

R



問いを立てる難易度をあげていく

- 1回目 グループで問いを作る
- 2回目 個人で問いを作る
- 3回目 グループで問いを分類
- 4回目 個人で問いを分類
- 5回目 グループで問いに優先順位
(このあとはキャリアとアカデミックのそれぞれについて質問を考える)

易
↓
難

問いを立てる授業 (高1コア探究)

コア・Q (問いを立てる) 2つの問い

- ①「自分はなぜ学ぶのか」？ ← 探究テーマ
- ②どうすれば質問を作り、問いを立てる力をつけることができるのか？

9回続けて、問いを立てる授業です。
担当の先生は毎週かわります。

R

授業実施の裏側

担任会議を活用しています！

(担任会でやっていること) (例)

- (1) 前回のコアの授業のふりかえり
- (2) 次回の授業のスライド・ワークシート確認
- (3) 教科を学ぶ意味について順番にプレゼン

補習の場であり、教師の学びの場。他教科を知る場

R

生徒の感想 (多かった声)

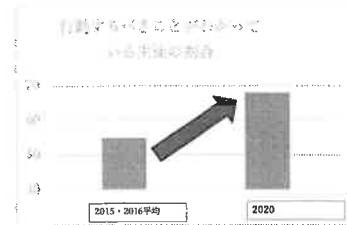
- ・ コア探究の授業はいろいろ自分で考えたりしないといけなかったから大変だったけど、これから先、コア探究の授業で身につけた力は役に立つと思うし、この授業を受けて良かったです。
- ・ 疑問を立てることが苦手なタイプだったので、この授業を通して、疑問から仮説を立てるといった流れをどのようにするべきなのか学べてたので良かったです。とても有意義な授業だった。

コア探究の授業はなぜコアだと思いますか？

- ・ 人の人生の根幹となる部分を考えるから
- ・ 物事を中心に学ぶから。学ぶことで新たな一面を見ることができたり、本質を知ることによって学びが深まる。



コア探究の実施で キャリア教育は確実に前進した！



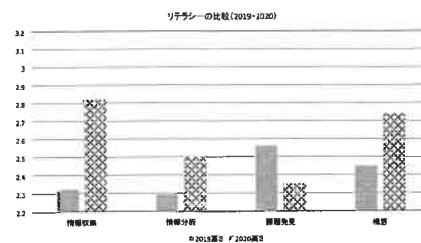
コロナ過で動いた生徒たち！

<生徒の行動例>

- * 自分で計画を立て、授業以外で毎日5時間勉強
- * 2か月で376時間と猛烈に勉強
- * 毎朝ランニングを20〜30分続けました。早寝早起きを続けられました。
- * 毎日夜まで母が仕事であるため、家事全般を自分が担当。少しでも夜まで仕事の母を楽にさせてあげられるように動いた
- * 美味しいラーメン作り企画。動物の骨や乾物、香味野菜などからスープを取り自分でタレも具材も作った。
- * 中高吹奏楽部の部員を募りテレワーク演奏実施
- * GCが募集したオンライン模擬裁判への参加。検察チームのリーダーとなり初めて人をまとめる経験
- * 京丹後の活性化プロジェクトに向けた、ミーティング主催の準備
- * ガウンを50着作り、病院に寄付。日常を崩さない。
- * ISN国際会議開催のための会議参加と準備

* 時間の使い方コンテストから(HPにもあり)

コア探究実施前の学年と 比べても力がついている！①

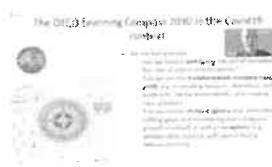


学びみらいPASS リテラシーの比較
(左が実施前、右が実施学年、卒業直前の比較)

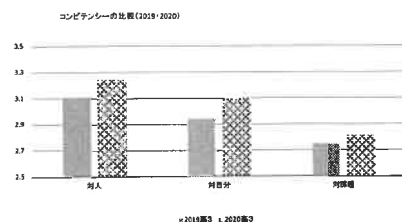


本校生徒がOECD主催のオンライン ワークショップに参加！

～2030年以降の教育についておよそ130か国のメンバーで議論しました～



コア探究実施前の学年と 比べても力がついている！②



学びみらいPASS コンピテンシーの比較
(左が実施前、右が実施学年、卒業直前の比較)



教員の変化！【学習する組織の実現！】

1年目

- ・生徒にとっても教員にとっても、有意義な授業だったと思う。特に、教員には、アクティブラーニングの手法を用いた授業の練習になったと思う。
- ・コア探究は、わたしは「なぜ学ぶのか、どんな自分に育ってゆくのか」という意識が育めばよいと思っておりました。その成果と効果があったと思います。
- ・教員同士が毎週の打ち合わせで顔を突き合わせて会話することが出来たので、ものすごく「風通しの良い学年団」を作ることが出来たのは大きな収穫。
- ・問いを作る題材として、各教員が学びの意義を語る授業は、とてもよかった。改めて「理科を学ぶ意味」について考え、まとめることができた。



3年目 つなぐ意識が強くなる！

- 「コア探究と教科をもっとつなぐべきだし、つなげる」（多数）
- 「コアが特別な授業でなく、日ごろの教科の授業の延長であることの意識を生徒だけでなく教員も持って授業に臨むべき」
- 「国語科がどのように関わっていくべきかを議論していきたいと思った。たとえば体裁について指導できれば、ほかの先生はもっと内容について指導できるかもしれない」
- 「自分の普段の授業も“日々の授業で論文のネタになるような創造的な学びのきっかけをつくられているか”と考えるようになった。コア探究のような学びがあることで、日々授業に対する意識や在り方も考えるきっかけになっている。」
- 「教員のモチベーションやスキルによって生徒の受ける指導に大きく差がうまれてしまう」
- 「自戒をこめて、生徒の思考の浅さを嘆く人ほど、思考が止まっている場合が多々あるように思えた」

34

1年目 チームだから成長する！

いろいろな教員が存在する！

ある教員の総括

不安に寄り添うことも重要。

土台は学年というチーム作り！？

- ・思考の部分では個人差が大きく、退屈そうにしている生徒が多かったり、考えることを放棄している生徒もいた。
- ・1コマの授業に対する準備としては非常に労力が必要で、全教員が集まる必要があるなど時間的な制限も負担。
- ・本来、各教科でおこなっている学び方を丁寧に指導すれば、必要性は低くなるのではないだろうか。

⇒ コアは教員にとってどうだったか？ 自分の変化は？

- ・上手に展開できる自信がない回が多く、正直気が重かった。
- ・苦手な内容にもチャレンジし、最後まで逃げないこと。



コア探究を担当して ~ある若手教員の変化~

2018年 春

本当にやりたくない。カリキュラムに存在している理由が分からない。逃げたい。就職間違えた…。



2019年 春

探究って、難しいけれど、生徒にとっても、教員にとってもやってみる価値はある。…頑張ってみようかな。

2年目

コアに取り組む中でカリマネの重要性に気づく！

教員の総括から
(高2 終わり)

- ・1単位の授業の中でコアで目標としていることを伝えるのは難しいと思う。正直、授業だけで身につけることへの限界を感じた。
- ・コアでの学びが教科の学び全体に波及することを実感できると、もっとモチベーションが上がるのでは。逆に言うと、そもそも学校全体で身につけさせたい学力についての共通認識がなければ、場当たり的な授業になってもたない。
- ・コアが目指す力をコアのみで身に付けさせようということは、愚の骨頂。日々の生活、部活、授業、すべてにおいて「核」となるようなことをやっているのだとしたら、コアで学んだことを自然と出せるような授業づくりなり、生徒への働きかけが必要となる

2020/01/24

RITSUMEIKAN UJI JUNIOR AND SENIOR
HIGH SCHOOL

33

この教員は授業観も変化した！

授業とは

探究に関わるまで

試験問題が解けるようにすること

与えられた問に対して答えが出せること



授業とは

腹をくっつけてから

視野を育てること

- ・1つの物事を様々な視点から見ること
- ・「現代」を見つめる切り口を増やすこと



自分なりの問を立て、それを解決していく経験をする

そのためのコンテンツが教科であり、
コンテンツと「今」をつなぐ術が探究なのでは？



課題は山積み

そもそもまだ組織に定着してないのでは？

- ・どうすれば教科とよりつながる？
 - ・どうすれば教員の共通認識に？
- ・カリキュラムマップも未完成
 - ・評価はどうする？誰がする？
- ・本当に3学年まわせるのか？
 - ・指導する教員集団は？

できない理由はいくらでもあげれる



取り組みは年々バージョンアップ！

- ①高1コア探究 キャリアリンク鹿島建設教材を活用
→大人の本気の探究を題材に探究的な学びの基礎を習得
→権物公園魅力化で学んだことを活用する
- ②高2コア探究 課題設定に焦点を当てる
→チョコプロ、3000文字論文、進路探究でマイテーマを設定
- ③高3コア探究 高大接続強化
→プロジェクト+報告書 or 論文の選択制に
→経産省とコラボしての起業家教育？？



日本型コアを形にすることが重要！

(仮説)

- 1、コアは必要。
総合と特活が要
- 2、日本型コアは
おそらくチーム
(旧コアは専門家が担当)



次の教育は生産者として創るもの！



思いは若手へと、、、

高1コア・高2コアは若手が責任者
として学年をリード！



「これこそこれからの学び」

「こういうことに取り組みたかった」

「大事なことだと思うので頑張ります」

教育は人なり

→異動を前提としない私学の将来は
若手の教員の力量が決める！！



探究の時間はなぜ必要か？

自分なりの今の答え

- ・教員や教育課程をつなぐコア
- ・これからの時代、生徒の将来
に大切な学び（生産者に！）



令和3年度 コア探究（総合的な探究の時間）実施報告書
（文部科学省 WWL コンソーシアム構築支援事業）

2022 年（令和4年）3月31日発行

発行者 立命館宇治中学校・高等学校

〒611 - 0031 京都府宇治市広野町八軒屋谷 33 番 1

TEL 0774-41-3000

FAX 0774-41-3555

<http://www.ritsumei.ac.jp/ujc/>